

第三章 衛生組合



### 第三章 衛生組合

#### ●衛生組合規程

●長野縣令第四十一號

明治四十一年  
十二月十一日

#### 衛生組合規程

第一條 市町村ニ於テハ傳染病豫防法第二十三條ニヨリ衛生組合ヲ設置スベシ

第二條 組合ハ連擔セル市街地ニ在テハ約三十戸其ノ他ノ部落ニ在テハ約十五戸ヲ以テ之ヲ組織スベシ

第三條 組合ハ規約ヲ設ケ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 清潔方法消毒方法ニ關スル事項
- 三 傳染病豫防救治ノ方法
- 四 種痘ノ普及ニ關スル事項



五 規約違反者處分ノ方法

六 其ノ他必要ナル事項

第四條 組合ニハ組合長ヲ置キ組合員之ヲ選舉スベシ組合ハ其狀況ニ依リ副長ヲ置クコトヲ得

第五條 組合長ハ規約實行ノ責ニ任ジ組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スベシ

第六條 組合長辭職セントスルトキハ組合ノ承認ヲ經ヘシ

第七條 組合ノ組織又ハ組合長ニ變更アリタルトキハ組合長ヨ

リ市町村長及聯合組合長ニ届出ツヘシ

第八條 市町村内ノ衛生組合ハ之ヲ聯合シ左ノ役員ヲ置クベシ

一 聯合組合長 一名

二 聯合組合副長 若干名

第九條 聯合組合長ハ衛生組合長之ヲ選舉シ副長ハ區又ハ大字ノ衛生組合長之ヲ選舉スヘシ區及大字アラザル町村ニ於ケル

副長ノ選舉ハ町村ニ於テ便宜區域ヲ定メ之ヲ行フヘシ但シ一區域約百戸トス

第十條 聯合組合長ノ選舉ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ行ヒ副長ノ選舉ニ關シテハ聯合組合長之ヲ行フヘシ聯合組合長ハ當選シタル副長ノ氏名ヲ市町村長ニ報告スヘシ

第十一條 前條ノ選舉ヲ了リタル時ハ聯合組合長ニ付テハ知事副長(市ニ屬スル)副長(副長ヲ除ク)ニ就テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 聯合組合ハ聯合組合ヲ監督シ規約ノ實行ヲ督勵スヘシ

副長ハ聯合組合長ノ指揮ヲ受ケ其ノ選舉區域内ニ於ケル衛生組合ヲ監督スルモノトス

聯合組合長事故アル時ハ其ノ指定シタル副長之ヲ代理ス

第十三條 聯合組合ノ役員辭職セントスル時ハ選舉シタル組合



長ノ承認ヲ得市ニ在テハ市長ニ町村ニ在テハ町村長ヲ經テ郡長ニ届出ベシ

郡市長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯合組合長ニ限り直ニ知事ニ報告スルコトヲ要ス

第十四條 聯合組合長以下役員ノ任期ハ四年トス但再選スルコトヲ得

第十五條 聯合組合ニハ衛生上特別ノ技能ヲ有スル顧問一名若ハ數名ヲ置クコトヲ要ス

第十六條 郡長警察官署長市町村長ハ聯合組合及衛生組合ヲ監督シ必要ニ應ジ聯合組合長ヲ招致スルコトヲ得

郡市長若ハ警察官署長ニ於テ前項ノ招致ヲ行ハントスルトキハ互ニ協議スヘシ

第十七條 聯合組合長前條ノ招致ニ應シ訓示ヲ受ケ又ハ協定事項等アリタルトキハ之ヲ町村長ニ報告シ又ハ副長及衛生組合

長ニ傳達スヘシ

第十八條 市町村長聯合組合長ハ必要ニ應シ互ニ協議シテ副長又ハ衛生組合長ヲ招致スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長ヲ要スルトキハ聯合組合長之ニ當ルヘシ

第十九條 副長ハ必要ニ應シ其監督區域内ノ衛生組合長ヲ招致スルコトヲ得

第二十條 聯合組合長ハ毎年二回以上衛生組合全部ニ對シ講話幻燈其ノ他ノ方法ニ依リ衛生思想ノ普及ニ努ムベシ

第二十一條 聯合組合ニハ沿革史ヲ備置キ左ノ事項ヲ記載シ異動ノ都度訂正スヘシ

一 組合ノ沿革

二 役員ノ氏名

三 執行シタル顯著ナル事業ノ概況

四 所屬衛生組合ノ名稱戸數及役員ノ氏名



- 五 其他必要ノ事項
- 第廿二條 聯合組合長ニ異動アリタルハ町村長ハ郡長及ビ警察官署長ニ市長ハ警察官署長ニ其ノ年月日氏名ヲ報告スベシ
- 第二十三條 郡長及警察官署長ハ聯合組合長名簿ヲ備ヘ置キ異動ノ都度加除スヘシ
- 第二十四條 郡市長警察官署長ハ時々聯合組合ニ對シ其成績ヲ檢閲スルコトアルヘシ
- 第二十五條 郡市長警察官署長前條ノ檢閲ヲ爲シ成績優良ナリト認ムルトキハ其ノ詳況ヲ警察部長ニ報告スベシ
- 第二十六條 警察部長ハ前條ノ報告ヲ審査シ其ノ狀況ニ依リ該組合ニ對シ之ヲ表彰スルコトアルヘシ
- 第二十七條 本規程施行ニ際シ聯合組合以下設立ニ至ル迄ノ事務ハ市町村長之レヲ行フ

●衛生組合組織標準ニ關スル件

●警發第五〇九號 明治四十一年十二月十七日 (警部長ヨリ各郡市長ヘ照會)

從來ノ衛生組合規程ハ其區域廣大ニシテ隣保團結共同扶持ノ實効ヲ奏シ難ク又其監督方法モ區々ニ涉リ加フルニ規約實行ノ獎勵方法ナキ等組合ノ活動ヲ促スノ上ニ於テ欠点多ク殆ト有名無實ノ實況ニシテ傳染病豫防上ニ何等ノ利スル所ナキヲ認メ今般縣令第四十一號ヲ以テ組合規程ヲ全然改正セラレタルノ主旨ニ有之候條警察官署長ト協議之上明治四十二年三月末日ヲ期シ右之主旨ニ依リ明治卅三年三月警發第六〇號同年四月同號ノ二御通牒ノ標準ヲ參照セラレ一般ニ組織ノ完了ヲ告ケ候様御配慮相成度此段及照會候也

●衛生組合規約標準

●警部長通牒 (警發第六〇號) 明治卅三年三月九日

各郡市長宛



本日縣令第十七號ヲ以テ衛生組合規程發布來ル五月一日ヨリ施行ノ筈ニ有之就テハ右規約標準御參考トシテ及御差廻候條各町村長ニ御通達相成度尤モ土地ノ實況ニ照シ標準ノ全部ヲ適用シ難キ場合ニハ便宜條項ノ加除増減ハ敢テ差支無之儀ニ付右様御了知相成度命ニ依リ此段及通牒候也

(別紙)

衛生組合規約標準

規約ニ規程スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 家屋ノ内外及庖厨、便所、芥溜並ニ居宅近傍ノ道路、下水、溝渠等ハ不斷掃除ヲ爲シ常ニ清潔ニスヘキコト
- 二 飲料用ノ井水ハ毎年之ヲ浚渫シ井邊ノ溝渠ハ時々修繕ヲ加ヘ汚水瀦溜若クハ滲透ナカラシムルコト
- 三 飲料用井水ニ接近シテ汚物ヲ洗滌セサルコト
- 四 不熟ノ果實並ニ腐敗ニ傾キタル飲食物ハ販賣シ又ハ飲食

セサルヲ

- 五 衣服ハ時々洗濯シ身躰ハ常ニ清潔ニスヘキヲ
- 六 春秋兩季ノ種痘ヲ惠ラサルヲ
- 七 料理屋、飲食店、宿屋、湯屋、魚屋、八百屋、豆腐屋、紺屋、鶏肉、劇場、寄席、遊技場及各種ノ集會場ハ各其營業者若クハ持主ニ於テ毎日(劇場寄席遊技場等ハ營業中)清潔ニ掃除シ其便所ハ消毒藥ヲ撒布スヘキヲ
- 八 公衆用ノ便所ハ其持主ニ於テ時々汲取其周圍ヲ掃除シ且ツ消毒藥ヲ撒布スヘキヲ
- 九 傳染病ニ疑ハシキ疾病ニ罹リタル時ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ決シテ隱蔽セサルコト
- 十 飲食物ハ總テ覆蓋ヲ設ケ塵芥ノ附着及蠅等ノ群集ヲ防クヘキヲ
- 十一 組合内ニ傳染病患者ヲ生シタル時ハ多人數寄合食飲セ



- 十一 サルコチ内ニ對症藥ヲ投シテ患者ノ病ヲ治スルニ努ムルハ人ノ健康ニ關スルニ至リ
- 十二 患家ノ井水ハ他家ニ供用セサルコト  
若シ不得止場合ハ必ス煮沸シタス後飲用スヘキコト
- 十三 組合内ニ於テ消毒の清潔法ヲ行フ後ハ形式ニ流レズ憐保互ニ幫助シテ完全ニ執行スヘキコト
- 十四 交通遮斷ノ患家アルトキハ組合長ノ填示シタル憐保ニ於テ之ヲ視察シ且ツ患家日常ノ用務ヲ處辨スヘキコト
- 十五 患家ニ居合セタルモノハ何人ト雖モ當該吏員ノ指示ヲ受クルニアラサレハ外出セシメサルコト
- 十六 患家ノ飲食物及其容器ハ必ス一定ノ看護人ヲシテ取扱ハシメ病室ハ勿論一旦看護室ニ入レタル器具ハ消毒ヲナシタル後ニ非レハ之ヲ他人ニ授受セサルコト
- 十七 患者排泄物及其汚染シタル衣類其他ノ物品ハ必ス石灰又ハ石炭酸水ヲ撒布シ置キ當該吏員ノ指示ニ從ヒ之ヲ處

- 十八 置スヘキコトニ關シテハ自ラニ注意シテ消毒ノ手續ヲ行フ
- 十八 患家ノ汚物塵芥等ハ決シテ河川溪流沼池等ニテ洗滌シ若クハ是等ノ場所ニ投棄セサルコト
- 十九 患家ニハ可成蚊帳ヲ用ヒ必要ノ消毒藥並ニ煮沸水ヲ備ヘ置クヘキコト
- 二十 衣服臥具疊敷物等ノ類ニシテ病毒汚染甚シキモノハ可成之ヲ焼却シ其汚染ノ疑ヒアルモノハ熱氣又ハ煮沸消毒ノ手續ヲ爲シ若シ物品過大ノ爲メ熱氣煮沸消毒トモ爲シ能ハサルモノハ二十倍ノ石炭酸水ヲ撒布シ尙ホ充分日光ニ曝スヘキコト
- 廿一 器具中陶器金具木製ノ器具等ハ二十倍ノ石炭酸水ニ二十時間浸漬シ若シ浸漬シ能ハサルモノハ全上ノ消毒藥ヲ以テ充分ニ拭淨シ後チ清水ニテ洗滌スヘキコト
- 廿二 排泄物ニ染ミタル土間及芥溜ハ充分石灰乳ヲ灌キ尙塵



廿二 芥ハ石炭油ヲ灌キ之ヲ燒却スヘキ  
廿三 前各項ノ外豫防ニ關スル令達及ヒ當該吏員ヨリ指示セラレタル事項ハ堅ク遵守スヘキ

●衛生組合規約設定上參考事項

●衛生課長通牒 (警發第六〇號ノ二) 明治卅三年 四月十八日 各郡市長宛

客月九日附警發第六〇號ヲ以テ警部長ヨリ衛生組合規約標準參考トシテ通知相成候所尙其他ニ關スル事項御參考トシテ別紙及通牒候也

(別紙)

- 一 (何々) 衛生組合ト稱ス
- 二 本組合ハ假ニ組合長ノ自宅ニ組合事務所ヲ設置ス

- 十 組合役員及選舉
  - 一 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク
    - 一 組合長 一名
    - 一 組合副長 一名
    - 一 委員 若干名
  - 二 組合長、組合副長及委員ノ選舉ハ組合會員ノ投票ニ依リ有効投票ノ多數ヲ得タルモノヲ以テ當選者トス
  - 三 選舉人被選舉人ノ判明ナラサル投票ハ之ヲ無効トス
  - 四 組合長組合副長及委員ニ選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ其就任ヲ辭スルコトヲ得ス
  - 五 委員若シ事故アリテ其任ヲ辭セントスルトキハ事情ヲ詳記シ組合長ニ届出認可ヲ受クヘシ
  - 六 組合長ハ規程第十條ニ基キ諸般ノ事務ヲ整理シ且其共有



六 財産ノ管理ヲ爲ス

役員ノ任務

七 組合長及組合副長ハ組合内一般ノ狀況ヲ視察シ委員ヲ督勵シテ規約ノ實行ヲ期スヘシ

委員ハ便宜受持區域ヲ定メ傳染病流行時期ニ於テハ最モ頻繁ニ其持区内ヲ巡視スヘシ

八 醫師ノ治療ヲ受ケス又ハ傳染病ニ疑ハシキモノアルヲ認メタルトキハ直ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ若シ診察ノ結果傳染病患者ナルトキハ直ニ届出ヘキハ勿論消毒方法病院病舎ニ收容ノ手續等時機ヲ失セサル様取計フヘシ

會議及議件

九 總會ハ定期臨時ノ二種ニ區別ス

定期總會ハ毎年四月臨時總會ハ必要ニ應シ之ヲ開ク

十 組合會ノ會長ハ組長ヲ以テ之ヲ充テ議案ハ組合長之ヲ提

出ス

十一 會議ノ席次ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

十二 決議ハ出席員過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

十三 總會ニ於テ決議スヘキ事項左ノ如シ

一 組合長組合副長委員ノ選舉

二 組合規約ノ設定及改正變更

三 組合内ニ於テ施行シタル事務ノ報告

四 組合費ノ収支決算報告

十四 組合長ニ於テ專行スヘキ事項左ノ如シ

一 組合内一般ニ施行スヘキ諸般ノ衛生事務

二 組合費ノ收支豫算及徵収方法並ニ決算ノ認定

三 規約各項ノ實施

四 衛生講話及消毒方法演習



- 五 組合費免除
- 六 規約違反者處分
- 七 其他組合ニ關スル一切ノ事務
- 八 組合ノ經費
- 十五 本組合内ニ居住スル者ハ總テ組合員トシテ組合費ヲ負擔スルノ義務アルモノトス
- 十六 役員ハ總テ無報酬トス但傳染病流行時ニ在テハ其職務ニ必須ノ實費ヲ支給ス委員ハ一日金貳拾錢以下ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 十七 規約第七條ノ各項ヲ遵守セサル者ハ五錢以上壹圓以下ノ過怠金ヲ差出サシムヘシ

### ●衛生組合格規約標準追加

●警察部長通牒

明治四十二年一月十九日

各郡市長宛

警發第五〇九號

衛生組合格規約標準ニ關シテハ客月十七日付警發第五〇九號ヲ以テ及通牒置候處尙該規約中へ左記各項追加セシメ候様御取計相成度此段通牒候也

追テ衛生組合格規約第二條ニ於テ組合ノ組織ヲ規定セラレ候ヘ共右ハ唯其標準戸數ヲ示サレタルニ過キサレハ成ルヘク從來ノ伍人組等ヲ利用シ是迄ノ慣行上冠婚葬祭等隣保團結共同扶持シキリタル區域ヲ一組合トシ衛生上實効ヲ奏スルニ於テ至便ヲ與フル様致度從テ村落ニ在テハ七八戸乃至廿戸位市街地ニ在ッテハ二十乃至四五十戸位(戸數百ニ及ハサルキハ團結ノ必要上一町一組位トナスモ妨ナシ)ニ致ス共狀況ニ依リ差



支無之候ニ付右通知相成度此段申添候

一九四

追加事項

一 マトラホーム患者發生シタルトキハ明治四十一年六月本縣  
 告諭第一號ニ依リ速ニ之レカ撲滅ニ努ムルト全時ニ各自  
 互ニ警戒シテ専ラ之ヲ豫防スルコト  
 二 花柳病ニ罹リタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト殊  
 重ニ壯丁者ニ在リテハ最注意ヲ拂ヒ徴兵検査ニ際シ優秀ノ  
 如ク成績ヲ収ムルニ務ムルコト

警務部  
 警務局長  
 警務部

第四章 傳染病預防補助



第四章 傳染病豫防費補助

支無之候ニ付右通知相成度此段申添候

追加事項

- 一 トラホーム患者發生シテキハ明治四十一年六月本縣  
告諭第一號ニ依リ速ニ之レカ撲滅ニ努ムルト全時ニ各自  
互ニ警戒シテ専ラ之ヲ豫防スルコト
- 一 花柳病ニ罹リタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト殊  
ニ壯丁者ニ在リテハ最注意ヲ拂ヒ徴兵検査ニ際シ優秀ノ  
成績ヲ収ムルニ務ムルコト



第四章 傳染病豫防費補助

●傳染病豫防法第二十四條ノ

補助ニ關スル件

●内務省令第十八號

明治三十年七月十五日

傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件左ノ通定ム  
府縣知事ハ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨ  
リ市町村ニ對スル補助ニ關シ左ノ各項ニ依リ規定ヲ定メ内務大  
臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額
- ニ對シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町村ニ補助スル歩合ハ精
- 算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但支出ニ伴フ收入又
- ハ補助金寄附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル
- 額ニ對シ本項ノ歩合ヲ定ムルコトヲ得



- 二 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シテ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但本項ニ依リ算出シタル補助ノ金額前項六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一迄減額シ二分ノ一ヲ超ルトキハ二分ノ一迄減額スヘシ
- 三 市町村ノ支出額其ノ負擔ニ堪エスト認ムルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキ二分ノ一以上全部迄ヲ補助スルコトヲ得
- 四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但金額ニ換算スヘシ
- 五 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シテ補助スルヲ得

●市町村傳染病豫防費補助規程

●長野縣令第三十五號

明治卅二年五月九日

第一條 市町村傳染病豫防費中左ノ諸費ニ對シテハ其精算額ノ

- 四分ノ一其他ノ諸費ニ對シテハ六分ノ一ヲ補助ス但シ支出ニ伴フ収入又ハ補助金、寄附金アルトキハ之ヲ控除シ補助歩合ヲ計算ス
- 一 傳染病豫防法第廿一條第三號中醫師、藥劑師、看護人(素養アリ)ノ給料手當及旅費
- 二 全上第四號中傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ノ建築費
- 三 全上第八號鼠族驅除及其施設諸費
- 四 全上第九號家用水ノ供給諸費
- 五 全上第十號ノ手當金
- 第二條 市町村ノ支出額其負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ又ハ特別ノ理由アルトキハ其支出總額ニ對シ全額迄ヲ補助スルコトアルヘシ
- 第三條 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ時價ニ運搬費ヲ加ヘテ金額ニ換算ス



第四條 市町村ヨリ稟請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シテ補助スルコトアルハシ

●市町村傳染病豫防費補助規程

施行手續

●長野縣訓令第百三號

明治三十三年七月六日

郡市役所 警察署 警察分署 町村役場

明治三十二年五月長野縣訓令第八十號市町村傳染病豫防費補助規程施行手續左ノ通改正ス

市町村傳染病豫防費補助規程施行手續

- 第一條 補助規程第一條ニ依リ市町村ノ支出ニ對シ補助ヲ爲スハ左ノ各號ノ限度ヲ超ヘサル支出ノ額ニ對シ之ヲナス者トス
- 一 醫師藥劑師ノ給料一日參圓以内一回五十錢以内
- 二 素養アル看護婦一日一圓五十錢以内

- 三 患者死者ノ運搬及消毒ニ使役スル人夫賃一日一圓以内
  - 四 小使用達人ハ一日六十錢以内
  - 五 患者ノ食費滋養品代ハ一人ニ對シ一日四十錢以内
  - 六 吏員豫防委員事務員ノ手當ハ一日六十錢以内
  - 七 豫防委員事務所ノ借家料一日二十五錢以内
  - 八 清潔法執行ノ爲メ使役スル人夫賃ハ一日五十錢以内
  - 九 豫防救治ニ従事ス病毒ニ感染シ又ハ死亡シタル者ノ手當金ハ明治三十三年六月本縣訓令第九十一號ニ依リ認可ヲ受ケタル給與額
  - 十 埋火葬費(人夫賃薪炭油葬具共)死者一人ニ對シ四圓以内
  - 十一 種痘醫手當ハ一日二圓以内
- 第二條 第一條ノ制限ニ依リ難キ者ハ其理由ヲ具シ豫メ縣知事ノ認可ヲ受クベシ認可濟ノモノニアラサレバ其支出超過額ニ對シ補助ヲ與ヘス但特別ノ事情アル場合稟請ノ期限マテニ支



出シタル分ヲ加ヘ稟請スルコトヲ得  
第三條 給料手當ヲ受クルモノ、食費ニ對シテハ補助ヲ與ヘス

●市町村傳染病豫防補助費稟請手續

●長野縣訓令第百號 明治三十三年 六月二十九日  
郡市役所 警察署 警察分署 町村役場

明治三十二年七月長野縣訓令第百二十七號市町村傳染病豫防費補助稟請手續左ノ通り改正ス

第一條 市町村傳染病豫防費補助稟請手續日五十日以内  
ハ別紙様式ニ依リ市ニ在テハ直ニ町村ニ在テハ郡役所ヲ經テ  
縣知事ニ稟請スヘシ  
第二條 補助稟請期日ハ左ノ如シ但特別ノ事情アル場合ハ請求  
期限迄ニ支出シタル分ヲ請求スルコトヲ得一日一圓以内

第一期 (自四月至十一月)十二月廿日限り稟請

第二期 (自十二月至二月)四月廿日限り稟請

第三條 支出總額五百圓以下ナルトキ及第二期稟請ノ場合ハ資  
力表ヲ添付スルヲ要セス資力表中地租、所得稅、國稅營業稅  
ハ定率ヲ掲ク

第四條 規定ノ補助額ハ錢位ニ於テ四捨五入ノ計算ヲ爲スヘシ  
明治何年度第一期(第二期)傳染病豫防費補助稟請書

一金何圓

傳染病豫防費ノ内補助規程第一條第一項第一號  
支出精算額金何圓ノ四分ノ一

傳染病豫防費ノ内補助規程第一條前項以外ノ支  
出精算額金何圓六分ノ一

右補助稟請候也

市町村 九 各 町











寄附金

一何々

合計

明治何年度市町村資力表 明治 年九月三十日現在

種別	金額
地租	
縣稅戶數割	
縣稅營業稅	
縣稅雜種稅	

縣稅中國稅營業稅附加稅	所得稅	國稅營業稅

●給料手當等支出節約方

●警發第一五三號 明治三十二年 五月十一日 各郡市長宛

今回訓令第八十號ヲ以テ市町村傳染病豫防費補助規程施行手續相定メラレ候處右給料手當金ヲ受クルモノニシテ特別事情ノアラサル限りハ其制限ヲ超過セシメサルハ勿論其制限内ニ於テモ力メテ節約セシムルノ趣意ニ有之候條此旨御諒承ノ上各町村へ通牒方可然御取計相成度依命此段及通牒候也

●患者服藥食費等取扱方



●檢發第二三號

明治卅二年  
七月廿一日

警察署長 警察分署長

患者ノ服藥食費其他ニ關スル件ニ付指示

患者ノ服藥食費其他ニ關スル件ニ付別紙ノ通り各事務所長へ通知致候條右ニ依リ嚴重監督ヲ爲スヘシ

一 豫防委員事務員等給料手當ヲ受クヘキモノノ飲食物ハ總テ

白辨セシムヘキ方針ナレハ米味噌等其他日用品ハ患者用ノ

モノト事務所用用ノモノトハ全然購入支出トモ區別シ混同

セサル様注意セシメラレタシ

一 市町村傳染病豫防費補助稟請手續第四條患者ノ食品滋養品

患者用藥品ノ遣拂數量ハ其遣拂ノ數量判明シ難キ品物假令

ヘハ一瓶ノ藥品中極メテ少量ツツヲ遣拂ノ場合及ヒ味噌醬

油鹽等ノ如キハ一々之ヲ日誌ニ記入スルヲ得サルヲ以テ是

等ノ類ハ其物品ヲ遣拂ヒタル最終ノ月日ヲ記入スヘキ様御

注意アリタシ

- 一 葡萄酒ハ醫藥用トシテ患者ニ與フルモノナレハ滋養品トシテ取扱フヘキモノニ無之然ルニ各所ニ於テ區々ノ取扱ヲ爲スヲ以テ藥品トシテ醫師ノ指示ニ依リ使用セシメラレタシ
- 一 病院病舎ニ備付ノ各簿表ハ未タ町村ニ依リ調製セサル向有之趣右ハ漸次多額ノ費用ヲ支出スルニ至テ整理上困難ヲ來スノミナラス補助稟請上ニモ差支ヲ來スヘキヲ以テ右等ノ町村ハ速ニ整理セシメラレタシ

●病院病舎番人給與補助

●警發第二八三號

明治四十年  
八月廿六日

各郡市長宛

傳染病院若ハ隔離病舎閉鎖中ノ保存方ニ關シテハ去ル三十八年七月警發第二四號ヲ以テ御通牒ノ次第モ有之候ニ付病院病舎ノ留守番人ヲ置ク場合ニ於ケル給與額ニ對シテハ今後補助可相成筈ニ候條適當ノ支出無之様御取計相成度此段及通牒候也



●病院病舎付屬火葬場建設費補助

●警發第六號

明治四十一年  
一月七日

(警察部長ヨリ各郡市長へ通牒)

傳染病ノ屍體ヲ火葬ニ附スヘキハ豫防上ノ原則ナルヲ以テ市町  
村ニ以テハ之レカ設備ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ未タ其設置ナ  
キ町村アリテ差支ヲ生スル儀ニ有之候條一層督勵ヲ加ヘラレ度  
而シテ今后設置スル火葬場ニ就テハ六分ノ一ノ補助可相成候得  
ハ傳染病院又ハ病舎ノ附屬建物ノ名義ヲ用ヒ設備標準ハ三十八  
年五月警發第一四九號通牒ニ依ラシメラレ候様致度依命此段及  
通牒候也

第五章 肺 結 核



●病院病舎付屬火葬場建設費補助

●警發第六號

明治四十一年  
一月七日

(警察部長ヨリ各郡市長へ通牒)

傳染病ノ屍體ヲ火葬ニ附スヘキハ豫防上ノ原則ナルヲ以テ市町村ニ以テハ之レカ設備ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ未タ其設置ナキ町村アリテ差支ヲ生スル儀ニ有之候條一層督勵ヲ加ヘラレ度而シテ今后設置スル火葬場ニ就テハ六分ノ一ノ補助可相成候得ハ傳染病院又ハ病舎ノ附屬建物ノ名義ヲ用ヒ設備標準ハ三十八年五月警發第一四九號通牒ニ依ラシメラレ候様致度依命此段及通牒候也

第五章 肺 結 核



## 第五章 肺結核

### ●肺結核豫防規定

●内務省令第一號

明治卅七年  
二月四日

肺結核豫防ニ關スル件左ノ通定ム

肺結核豫防ニ關スル件

第一條 學校、病院、製造所、船舶發著待合所、劇場、寄席、旅店其  
ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スル  
シ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若ハ其箇數充分ナラ  
スト認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ  
指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防タ爲メ少量ノ消毒藥液又  
ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スル



ニアラサレハ投棄スヘカラズ

第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第三條 地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二 前號ノ白布及貸浴袋ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラザレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト

四 前號ニ掲クル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラザレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條 病院ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ収容セサルコト

二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ収容セサルコト

三 結核病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第六條 消毒方法ハ明治三十五年<sup>五</sup>內務省令第十三號ニ依ルヘシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)(結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分)ヲ使用スヘシ

第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾壺ヲ配置セサル者、警察官署ノ指定シタル期ニ其ノ命令ヲ履行セサル者、同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス



第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設クルヲ妨ケス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●肺結核豫防規定ニ依ル指定

●長野縣令第十二號

明治卅七年三月廿九日

明治三十七年二月ニ内務省令第一號肺結核豫防ニ關スル取締規定第一條及第三條ニ依ルヘキ場所及鑛泉場左ノ如シ

第一條ニ依ルヘキ場所

銀行、會社、料理店、飲食店、勸工場、遊技場、湯屋、理髮店、貸座敷、貸席

第三條ニ依ルヘキ鑛泉場

小縣郡	別所村
東筑摩郡	本郷村
南安曇郡	安曇村
北安曇郡	中土村
上高井郡	山田村
下高井郡	平穩村
	豊郷村



●肺結核豫防規定施行方

●警収第四〇六一號

明治卅七年三月廿九日

警察署長 警察分署長

肺結核取締ニ關スル義ニ付指示

本年二月内務省令第一號肺結核豫防ニ關スル取締規定施行ニ就テハ左ノ事項ニ依リ措置スヘシ

- 一 省令第一條ニ掲ケタル學校、病院、製造所ハ私立ニ屬スル者ニシテ同第五條ニアル病院、製造所、養育院、育兒院ハ官公立ニ屬スルヲ以テ取締上權衡ヲ失セサル様注意スルコト
  - 二 省令第五條ニ依リ鐵道停車場ニ於テハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備ヘ且適當ノ場所ニ唾壺以外ニ略出スルヲ得ザル旨記載シタル揭示札ヲ掲クヘキニ依リ違背者ヲ認メタルトキハ鐵道營業法第三十五條ニ依リ處分ヲ爲スコト
- (參照) 鐵道營業法 (明治卅三年三月法律第六十五號)
- 第三十五條車内停車場其ノ他鐵道内ニ於テ妄狀ヲ現ハシ其

三

他不良ノ行狀ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

鐵道客車ニアリテハ一等及二等車ハ既ニ唾壺ノ設置アルモ三等車ハ構造ト通路ノ狹隘ナルト乗客出入ノ頻繁ナルヨリ之レカ設備ニ困難ナルヲ以テ目下其方法考究中ノ趣ニヨリ此旨心得置クヘキコト

四

適當個數ノ唾壺ヲ配置スヘキ義務アル營業者ニ對シテハ省令ノ主旨ヲ諭告遵守セシメ唾壺内ノ唾痰ハ消毒ノ上便所ニ

五

投棄セシムルコト但完全ナル下水溝ニ投棄セシムルモ妨ケナシ

六

省令第三條ニ依リ縣令第十一號ヲ以テ指定セラレタル鑛泉場ハ著明ノモノヲ掲ケタルニ過キス故ニ今後必要ヲ認ムル場合ハ追加セラル、ノ主意ナルニヨリ隨時上申スヘキコト下宿ハ旅店ノ内ニ當然包含セルヲ以テ同一ノ取締ヲ爲スヘキコト

●肺結核豫防ニ關スル告諭



●長野縣告諭第一號 明治三十七年 二月十二日  
 結核ハ傳染病ニシテ多クハ慢性ノ經過ヲ取り世人ノ注意ヲ惹ク  
 コト虎列刺「ペスト」ノ如ク甚シカラスト雖モ全国各地ニ蔓延シ  
 年々多數ノ國民ヲ侵シ國家ニ慘害ヲ及ボスモノ蓋シ其比ナカル  
 ヘシ最近ノ調査ニ依レハ明治三十二年中結核ニ原因シタル死亡  
 者ハ約七萬ニシテ而シテ都市ニ於テ最モ多ク死亡總數ノ平均六  
 分ノ一ヲ占メ又全國ニ於テ生産能力ヲ有スル年齢ニ在リテハ其  
 死亡數中六分ノ一餘ニ相當セリ加之近年ニ至リ本病患者増加ノ  
 傾向アルニヨリ結核諸病中其大部分ヲ占メ從テ傳染蔓延ノ危害  
 最モ大ナル肺結核ノ豫防ニ關シ今般內務省令第一號ヲ以テ取締  
 規則ヲ制定セラレタル所以ナリ就テハ該規則以外ニ於テ肺結核  
 豫防上左記各號ノ事項ヲ遵守シ本病ニ侵サル、コトナキ様各自  
 深ク法意ヲ加フヘシ

一 肺結核病毒ノ蔓延ハ主トシテ患者ノ咯痰ニ因ルモノナレハ

- 肺結核又ハ其ノ疑ヒアル患者アル家ニ於テハ患者用トシテ  
 磁製若クハ硝子製ノ有蓋唾壺（少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入  
 レ置キ一ヲ備ヘ唾壺内ノ咯痰ハ便所又ハ下水溝ニ投棄スル  
 ニ先ツテ消毒ヲ行フコト  
 唾痰ヲ消毒スルニハ其ノ同量以上ノ石炭酸水（二十倍）（結晶  
 酸五分、鹽酸一  
 分ト水九十四分）ヲ加ヘ能ク攪拌シ一時間以上放置スルコト
- 二 肺結核患者ノ衣服、寢具其ノ他患者ノ咯痰ニ汚染シタル物  
 品ハ時々消毒ヲ行フコト
- 三 肺結核患者ノ居住シタル室其ノ使用シタル衣服、寢具、飲食  
 器具其他ノ物品ハ病毒傳播ノ危險最モ大ナルヲ以テ相當消  
 毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用セシメサル事
- 四 呼吸器ニ異狀アルモノ、病後衰弱シタルモノ、體質虛弱ナルモ  
 ノ又ハ小兒ノ如キハ容易ニ結核病毒ニ感染スルノ虞アルヲ  
 以テ肺結核又ハ其ノ疑アル患者ニハ可成近接スルヲ避クルコト



五 病院ニアラスト雖モ患者ヲ收容スヘキ設備ヲ爲シタル場所  
 (學校、工場、附屬ノ病室等)ニ在リテハ内務省令第一號第四  
 條ニ準シ相當ノ施設ヲ爲スコト

六 塵埃中ニハ屢々結核菌ヲ含有シ爲メニ該病感染ノ原因トナ  
 リ又結核菌ヲ含有セサル塵埃ト雖モ呼吸器ヲ害シ肺結核ノ  
 誘因トナルモノナレハ學校、工場其他多人數集合スル建物  
 ニ於テハ濕雑巾ヲ用キル等可成塵埃ノ飛散セサル方法ヲ用  
 キテ掃除ヲ行フコト

●工場ニ於ケル肺結核豫防上注意

●警務長内示衛秘收第一六六號 明治三十九年十一月十七日  
 警察署長 警察分署長  
 工場衛生ニ關スル義ニ付内示  
 各製糸工場ニ於ケル肺結核病ノ調査ニ關シテハ客月廿五日衛秘

取第一六六號ヲ以テ實況精査スヘキコトヲ内示シ置キタルニ依  
 リ本病蔓延ノ狀況ハ確實ニ調査内申セラレタルコト、信ス而シ  
 テ該内報ヲ調査スルニ本病者アル工場ノ尠ナカリシハ寔ニ喜ハ  
 シキ現象ナリト雖モ猶或ハ調査ノ及バサル所ナキヲ保セラレス  
 就テハ此際各工場主又ハ其管理者ニ懇篤示諭ヲ加ヘ左ノ防疫方  
 法ヲ講セシムルハ勿論其他臨機ノ處置ヲ採リ病毒ノ撲滅ヲ謀ル  
 ト全時ニ多數ノ工女ニ危険ヲ與フルノ余地ナカラシムル様一層  
 注意警戒ヲ加ヘシムヘシ

一 肺結核病ノ傳播ヲ來スヘキ原因及其豫防法ヲ一般工女ニ會  
 得セシムルコト

二 場所ヲ撰ハス咯痰ヲ吐出スル習慣ヲ除カシムルコト

三 室内ノ掃除ハ相當ノ注意ヲ拂ヒ雜濕巾ヲ用キ可成塵埃ヲ飛  
 散セシメサルコト

四 衣服寢具等ハ夏期ハ每週一回以上冬期ハ毎月二回以上日光



第六章 瘧

- 五 二 暴露セシムルコト  
睡壺ハ有蓋ノモノヲ舍室及交通利便ナル廊下ニ適宜配置セシメ壺内ニ入ルヘキ水量ニ軽度ノ振動ヲ受クルモ流出セザルヲ適度トシ投棄スルニ先ツテ消毒ヲ行ハジムルコト但最初少量ノ消毒藥ヲ壺内ニ入ル、モ便宜タルコト
- 六 患者アル居室及其ノ使用セル衣服寢具飲食器具其ノ他ノ物品ハ病毒傳播ノ危険最モ大ナルヲ以テ相當ノ消毒法ヲ行ハシムルコト
- 七 患者ハ他ノ健康者ト飲食器具ヲ共用セシメス又寢室ヲ區別シ全衾セシメサルコト
- 八 初期ト輕症トヲ問ハス患者並其ノ疑アル者ハ解雇セシムルノ方針ヲ取ラシムルコト
- 九 患者又ハ其ノ疑アル者發生シタルトキハ醫師ヲシテ診察セシムルコト



第六章 癩

- ニ暴露セシムルコト
- 五 唾壺ハ有蓋ノモノヲ舍室及交通利便ナル廊下ニ適宜配置セシメ壺内ニ入ルヘキ水量ニ軽度ノ振動ヲ受クルモ流出セザルヲ適度トシ投棄スルニ先ツテ消毒ヲ行ハジムルコト但最初少量ノ消毒藥ヲ壺内ニ入ル、モ便宜タルコト
- 六 患者アル居室及其ノ使用セル衣服寢具飲食器具其ノ他ノ物品ハ病毒傳播ノ危険最モ大ナルヲ以テ相當ノ消毒法ヲ行ハシムルコト
- 七 患者ハ他ノ健康者ト飲食器具ヲ共用セシメス又寢室ヲ區別シ全衾セシメサルコト
- 八 初期ト輕症トヲ問ハス患者並其ノ疑アル者ハ解雇セシムルノ方針ヲ取ラシムルコト
- 九 患者又ハ其ノ疑アル者發生シタルトキハ醫師ヲシテ診察セシムルコト



## 第六章 癩

### ●癩 豫 防 法

●法律第十一號

明治四十年  
三月十八日

第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒及其  
ノ他豫防方法ヲ指示シ且ツ三日以内ニ行政官廳ニ届出ヘシ其  
ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ

第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師  
又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防方法ヲ行フヘシ

第三條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ行  
政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救  
護スヘシ但シ適當ト認ムルトキハ扶養義務者ヲシテ患者ヲ引  
取ラシムヘシ必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所  
ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救



護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長  
(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ  
者)ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシム  
ルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於  
ケル前條ノ患者ヲ収容スル爲メ必要ナル療養所ノ設置ヲ命ス  
ルコトヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム  
主務大臣ハ私立ノ療養所ヲ以テ第一項ノ療養所ニ代用セシム  
ルコトヲ得

第五條 救護ニ要スル費用ハ被救護者ノ負担トシ被救護者ヨリ  
辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負担トス

第三條ノ場合ニ於テ之カ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴

方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 扶養義務者ニ對スル患者取引ノ命令及費用辨償ノ請求  
ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スヲ得但シ費用ノ  
辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ  
依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲ス事ヲ妨ケス

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負担トス但シ沖繩  
縣及東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ負担トス

一 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル救護費

二 檢診ニ關關スル諸費

三 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費  
第四條第一項ノ場合ニ於テ其費用ノ分擔方法ハ關係地方長官  
ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ主務大臣ノ定  
ムル所ニ依ル

第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對テ



必要ナル補助ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ其ノ費用ノ分担方法ハ前項ノ例ニ依ル

第八條 國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ扶養義務者ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得

行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得第十條 醫師第一條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルモノハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條ニ違反ヨタルモノハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第十二條 行旅死亡ハノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外行政官廳ニ

於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死体又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●癩病患者救護費用負擔ニ關スル件

●勅令第二百六十二號明治四十年七月九日

第一條 明治四十年法律第十一號第三條ニ依リ癩患者及其全伴者又ハ全居者ノ一時救護ニ關スル費用ハ必要アルトキハ救護地道府縣ニ於テ之ヲ繰替支辨スヘシ  
市町村長ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村ニ於テ繰替支辨スヘシ  
第二條 前條ニ依リ繰替支辨シタル費用ハ被救護者ニ、被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其扶養義務者ニ其ノ辨償ヲ求ムヘ



シ此場合ニ於テ必要アルトキハ義務者ノ住所若ハ所在地ノ  
地方長官又ハ市町村長ニ其徴収ヲ委託スルコトヲ得

辨償金ノ徴収ニ關シテハ府縣稅徴収ノ例ニ依ル

市町村ニ於テ繰替支辨シタル費用ニシテ前二項ニ依リ辨償ヲ  
得サルモノハ救護地道府縣ニ其辨償ヲ求ムヘシ

第三條 一時救護ニ要シタル費用ニシテ被救護者又ハ其扶養義  
務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ノ負擔トス

第四條 療養所ニ於ケル救護費ニシテ被救護者又ハ其扶養義務  
者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ被救護者ノ本籍地、本籍地ナキカ  
又ハ不明ナルトキハ救護地ノ屬スル療養所設置區域内道府縣  
ノ負擔トス療養所ニ送致スル費用ニ付亦同シ

第五條 癩患者死亡シタルトキハ救護ノ費用ハ其ノ遺留ノ金銀  
又ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサル場合ニ於テ扶養義務  
者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ遺留物件ヲ賣却シテ之ニ充ツルコ

トヲ得

第六條 本令ニ依リ道府縣ニ於テ繰替支辨シ又ハ負擔スヘキ費  
用ハ沖繩縣及東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ義  
務トス

第七條 本令ニ於テ市町村又ハ市町村長ト稱スルハ市制町村制  
ヲ施行セサル地ノ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防費國庫補助

●勅令第二百八十五號 明治四十年 八月三日

明治四十年法律第十一號ニ依ル道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫  
ハ全法第八條ニ依リ左ノ區別ニ隨ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入  
又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス



- 一 療養所創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費 二分ノ一
- 二 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不明者ノ救護費 二分ノ一
- 三 其ノ他ノ諸費 六分ノ一
- 四 私立ノ代用療養所ノ創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費 二分ノ一
- 五 私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費 六分ノ一

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩患者療養所設置區域

●内務省令第二十號

明治四十年七月廿二日

道府縣ハ左ノ區域ニ依リ其ノ區域内ニ於ケル癩患者ヲ入ラシムル爲メ必要ナル療養所ヲ設置スヘシ

第一區域

東京府(伊豆七島、小笠原嶋ヲ除ク) 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 愛知縣 静岡縣 山梨縣 長野縣

第二區域

北海道 宮城縣 巖手縣 青森縣 福島縣 山形縣 秋田縣

第三區域

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 岐阜縣 滋賀縣 福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣 和歌山縣

第四區域

島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣

第五區域

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 前項療養所ノ設立地ハ第一區域ニ在リテハ東京府下第二區域ニ



在リテハ青森縣下第三區域ニ在リテハ大阪府下第四區域ニ在リ  
テハ香川縣下第五區域ニ在リテハ熊本縣下トス

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●明治四十年法律第十一號施行規則

●内務省令第十九號

明治四十年  
七月二十日

#### 明治四十年法律第十一號施行規則

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ患者又ハ死体

所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其事實ヲ漏泄スル事ヲ得ス

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアル

トキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之  
ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且

患者ノ本籍、住所、氏名及病況並扶養義務者ノ住所氏名ヲ具シ

地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ  
照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養

義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ全伴者又ハ  
同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲナシ又市町村長ヲシテ之  
ヲ爲サシムヘシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府  
縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スル  
コトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ内務大臣ノ  
指定シタル設立地ノ地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ  
當該地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘ



第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セ

シムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテ

ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外全法中市町村長ノ職務

ハ當該行政官廳之ヲ行フ

第九條 第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩豫防上警察

ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大坂市ニ於テ

ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得



本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防消毒方法

●長野縣告諭第二號

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シ久シク其ノ病性ヲ誤認セラレタルモ  
癩菌ノ發見ニ依テ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニ  
シテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁唾液潰瘍部ノ膿汁等ニ  
汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノト  
ス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シテ法律第十  
一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ハ  
之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其他ハ各自ヲシテ消毒及豫防ノ方法  
ヲ行ハシメ以テ其ノ蔓延ヲ防止シ漸次根絶ヲ圖ラムトス然ルニ  
本病ハ其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニ渉ルヲ以テ患者及家人ハ宜  
シク公德ヲ重ンシ病毒ヲ散蔓セシメサルコトニ注意シ又一般公

衆ニ於テモ此ノ恐ルヘキ病毒ノ豫防ニ努メ相待テ其効果ヲ收メ  
サルヘカラス依テ左ニ其ノ豫防並消毒ノ方法ヲ舉示ス宜シク敍  
上ノ趣旨ニ依リ豫防上遺憾ナキヲ期スヘシ

明治四十二年六月二十二日 長野縣知事 大山綱昌

癩ニ關スル消毒其他豫防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セザル事
- 二 患者ノ衣類、寢具、其他日用品等ハ特ニ専用ノモノヲ備ヘ  
他ト混同セサル様注意スルコト
- 三 患者ノ常用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯  
スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容シタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病毒ニ汚染シタル繻帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑襤  
褸類ハ燒却スルコト



- 七 患者ハ成ルヘク外出ヲ避クルコト但止ムヲ得サルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アル者ハ其繙帶ヲ更メ外出スルコト
- 八 患者ハ成可他トノ交通ヲ避ケ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食器具（金屬陶器類ヲ除ク）玩具ノ調製又ハ其販賣其他病毒傳播ノ虞アル業ニ従事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、貸與又ハ授與セサルコト
- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト

- 十二 患者ノ一時滞留シタル場合ニ於テ其占居シタル室並ニ其使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スルコト
- 十三 看護等ノ爲メ患者ニ近接シ又ハ病毒汚染ノ物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ著用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 癩患者ノ死体ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

●癩患者視察方

●警收第二九三七號

明治四十二年  
六月十七日

警察署長

警察分署長

癩豫防ニ關スル義ニ付指示

癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ニ其事實ヲ漏泄スルコトヲ得サル



ハ明治四十年内務省令第十九條第一條第二項ノ規定スル處ニ有之候處當該吏員ニ對シテハ別ニ明文ナキモ右ノ精神ヲ遵守スヘキハ勿論ニ候惟フニ癩ハ從來遺傳性疾患ト認認セラレ世人ヨリ擯斥ヲ受クルコト甚シク呼フニ天刑病ノ名ヲ以テシ患家ハ外聞ヲ耻チテ極力其ノ事實ヲ秘密ニ付スルモノ慣習アルハ人情ノ弱点ニ有之醫師又ハ當該吏員ニ於テ豫防上此ノ弱点ニ斟酌ヲ加フルハ一面ニ於テ患家ノ告白ヲ促シ其ノ隱蔽ヲ豫防スル所以ニ外ナラス隨テ患者届出アリタル場合ニ於テモ制服ノ警察官之ニ出入シ隣保ノ視聽ヲ惹起スルカ如キハ努メテ之ヲ避ケ平穩ノ間ニ其視察ヲ了シ消毒其ノ他豫防方法ノ施行上ニ關シテハ苟モ苛酷ニ涉ルノ處置ニ出テス寧ロ病性等ニ付テハ一般ノ思想ヲ養成スルコトニ努メラルヘシ

●出獄スベキ癩患者取扱方

●警收第二九四〇號

明治四十二年  
六月十七日

警察署長 警察分署長

出獄スヘキ癩患者ニ關スル義ニ付指示  
監獄ニ拘禁スル癩患者出監ノ際ニ於ケル取扱方ニ關シテハ司法大臣ヨリ各監獄ニ訓令セラレタル趣ニ有之則チ癩患者ニシテ出監後療養ノ途ナク且救護者ナキトキハ典獄ハ監獄所在地ノ警察官署ニ對シ前以テ出監ノ日時ヲ通報シタル後監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ之ヲ同官署ニ引渡シ其ノ他ノ癩患者ニ對シテハ特ニ消毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ監獄所在地ノ警察官署ニ其ノ釋放ノ日時ヲ通報スヘキ筈ニ有之候條前段ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ上申シテ指揮ヲ受クヘク又後段ノ通報ヲ受ケタルトキハ相當ノ注意ヲナシ且該患者他所轄内ニ到ルヘキ者ナルトキハ之ヲ當該所轄警察官署ニ通報セラレヘシ

●明治四十年法律第十一號施行細則

●長野縣令第二十一號

明治四十三年  
五月十七日



第一條 癩若ハ其ノ疑アル患者又ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷又ハ檢案ヲ受クヘシ

第二條 明治四十年法律第十一號第一條ニ依リ届出ヲナストキハ口頭若ハ別紙書式ニ據ルヘシ

第三條 明治四十年法律第十一號施行規則第六條第二項ニ依リ届出ス請求書ハ當該警察官署ヲ經由スヘシ

第四條 公衆ノ出入スル場所ハ勿論一般人家ニ於テモ癩病毒汚染ノ疑アル片ハ場主戸主又ハ家族ヨリ當該吏員ニ申告スヘシ

癩患者(轉飯) 届

發病年月日	年月日(又ハ何年何月頃)	職
癩ト診斷シタル月日時	月日午前時	縣 郡 市 町 村 番地 士族 平民
轉飯 月日	月日治愈(死亡)	戸主又ハ某ノ何々 何 某 生 年 月 日
		女 男 業

死体檢案月日時	月 日 午前 午後 時	發病 地名
備 考		

右及御届候也

年 月 日

市 郡 町 村

番地

醫師 氏 名

警察官署宛

●明治四十年法律第十一號ニ關スル取扱手續

●長野縣令第五十七號

明治四十三年五月十七日

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ヲ受ケタル片ハ

郡役所 警察署 同分署 市役所 町村役場



直ニ患者又ハ死者アリタル家ニ臨ミ消毒及豫防方法ヲ指示ス  
ヘシ

病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アルトキ亦同シ

患者ニ對シテハ毎月一回一時救護中ノ者ニ對シテハ隨時視察  
ヲナスヘシ指示又ハ視察ハ成ルヘク秘密ニ之ヲ行フコトヲ要  
ス

第二條 癩ノ疑アル者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナシト

認ムル者アルトキハ醫師ヲシテ檢診セシメ癩ト確定シタルト  
キハ全法律施行規則第二條第一項ノ手續ヲナスヘシ

第三條 前條ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ錄取シ各別ニ調書ヲ作  
製スヘシ

一 本人本籍住所氏名年齢病況並扶養義務者ノ住所氏名

二 引取人ナキ今伴者全居者ニ付テハ今伴全居ノ事由及其ノ  
期間

第四條 警察官署ニ於テ患者ヲ療養所ニ送致スヘキコトヲ命セ  
ラレタルトキハ送致書ヲ作り關係書類ヲ添ヘ直送スヘシ

第五條 送致途中一時救護ノ必要アリト認ムルトキハ送致官吏  
ハ之ヲ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ現場ニ臨ミ救護ヲナスヘシ

第六條 患者ヲ療養所ニ送致スヘキコトヲ命セラレタルトキハ  
之ニ要スル費用ノ概算請求ヲナスコトヲ得

第七條 送致ニ要シタル費用ハ精算書ヲ作り證憑書類ヲ添ヘ五  
日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第八條 患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ患者ヲ引渡シタルトキハ  
其ノ旨ヲ知事ニ報告スヘシ

前項ノ引渡ニ際シテハ成ルヘク繰替タル支出金額ヲ領收スヘシ

第九條 療養所ニ送致セラレタル患者ノ救護ニ要シタル繰替支  
出金額ニシテ辨償ヲ得サルモノハ計算書ヲ作り證憑書類ヲ添



へ速ニ知事ニ請求スヘシ  
 全伴全居者ノ救護ニ要シタル繰替支出金額ニ付亦同シ  
 第十條 一時救護ノ爲要スル費用ハ左ノ標準ニ依ルヘシ但此ノ標準額ヲ超過スル場合ハ事由ヲ詳記シ計算書ニ添付スヘシ  
 一 醫師診斷料 一回ニ付 金五拾錢以內  
 二 全手術料 實費  
 三 全旅費日當

汽車賃一哩ニ付車馬賃一里ニ付宿泊料一夜ニ付 日當一日ニ付  
 金 四 錢 金 拾 五 錢 金 壹 圓 金 五 十 錢

四 藥 價 一日ニ付 金拾錢以內  
 五 食 料 一度ニ付 金五錢以內  
 六 看 護 人 一人一日ニ付 金五拾錢以內  
 七 被 服 料 冬夏衣 金七拾錢以內  
 冬夏衣 金壹圓四拾錢以內

八 寢 具 料 一夜ニ付 金貳拾錢以內  
 九 薪 炭 油 費 一日ニ付 金五錢以內  
 十 入 院 料 一日ニ付(食料ヲ除ク) 金五拾錢以內  
 十一 借 家 料 一日ニ付 金五十錢以內  
 十二 小屋掛料 材料及人足賃共 金貳圓以內  
 十三 送 致 費 患者ノ汽車汽船ハ最下等賃宿泊料  
 四拾錢以內車馬賃一里拾錢以內  
 十四 豫防消毒料 實費  
 十五 其他療養ニ關スル必要費 實費  
 第十一條 市町村長ヨリ知事ニ差出ス書類ハ總テ警察官署ヲ經  
 由スヘシ  
 第十二條 警察官署ニ於テ前條ノ書類ヲ受理シタルトキハ調査  
 ヲ遂ケ意見ヲ付シ進達スヘシ  
 第十三條 明治四十年法律第十一號施行細則第二條ニ依リ口頭  
 届ヲ受ケタルトキハ全條規定ノ書式ニ據リ届書ヲ作り届人ヲ







第七章 流行性脳脊髄膜炎

シテ署名セシムヘシ



第七章 流行性腦脊髄膜炎

### 第七章 流行性腦脊髄膜炎

#### ●流行性腦脊髄膜炎届出規定

●長野縣令第四十二號

明治三十六年十月二十七日

醫師流行性腦脊髄膜炎若ハ其疑アル患者ヲ診斷シ又ハ死体ヲ檢案シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ患者轉歸ノ場合亦同シ

劇シキ頭痛、頸部ノ強直、搖蕩、痙攣、痲痺、失神等流行性腦脊髄膜炎ニ疑ハシキ症候ヲ呈スル患者アル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ戶主、首長若クハ之ニ代ルヘキ者ヨリ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

本令ニ違背シタル者ハ壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

#### ●全患者取扱方

●長野縣訓令第九十三號

明治三十六年十月二十七日

警察署 警察分署



明治三十六年肝縣令第四十二號ニ依リ流行性腦脊髄膜炎ノ届出アリタルトキハ可成患者ヲ他ノ健康者ヨリ隔離シ其鼻汁、襯衣、手巾、衣服其他患者ノ居住シタル室内及病中使用等ニ依リ病毒汚染ノ疑アル物件ニ對シ消毒方法ヲ施行セシメ一般個人ヲシテ患者トノ交通ヲ爲サシメザル様措置スヘシ

●流行性腦脊髄膜炎豫防心得

第一 性 質

流行性腦脊髄膜炎トハ腦及脊髄ヲ被包スル薄膜ノ焮衡ニシテ此病ニ罹カルトキハ多クハ忽然トシテ重症ニ陥リタル如キ感ヲ來シ劇頭痛、頭部ノ强硬及ヒ疼痛、惡寒、發熱、嘔吐等アリ次ニ腦病ノ症狀ハ著明トナリテ眩暈、精神朦朧次ニ昏睡ニ陥リ呼ヘトモ容易ニ應セズ時ニ譫語ヲ發シ四肢或ハ其他ノ部ニ痙攣ヲ發シ後ニハ左或ハ右ナル偏身癱瘓シテ自カラ動カス能ハス或ハ下半身ノ癱瘓スルコトモアリ

然ルニ其容態ハ病勢ノ輕重ニ應シ自カラ緩急ノ差アルヲ以テ一様ニ云フ可カラスト雖トモ兎モ角モ急劇ニ腦ノ故障ヲ來ス疾病ト知ルヘキナリ  
本病ノ尤モ急劇ナルモノ二三日後ニ死シ或ハ甚シキハ既ニ數時間内ニシテ斃ル、コトアリ又輕キハ初メ重キ容態ニテ發スルモ其症狀ハヤガテ全ク去リ數日ノ後快復ニ趣クナリ之レヲ平均スルニ二週間乃至四週間内腦症狀ノ持續スルヲ常トス  
死亡割ハ流行時ノ異ナルニ從ヒ一定セス歐州ニ於ケル流行ニ徴スルニ或時ハ患者ノ半ハ死亡又或時ハ死亡數僅カニ五分一ニ過キサリシ事ナリ然ルニ本病ハ幸ニ治スルモノ往々不具ノ疾病ヲ貽スコトアリ之レ主トシテ重症ノ患者ニ見ル處ニシテ即チ聾者トナルアリ若シ其患者ニシテ幼者ナリセハ爲メニ聾啞トナル可シ又眼ニモ種々ノ障害ヲ貽シ甚シキハ盲目ニ陥ルモノアリ其外頭痛矢神發作、全神痙攣發作、痴呆、半身又ハ偏身ノ不隨意失語等ノ



症ヲ貽スコトアリ是等ノ諸病ハ徐々ニハ快復スルモノアレトモ  
又中ニハ終身病ニ陥ルモノ尠カラス  
流行性腦脊髄膜炎トハ右ニ述ヘタル如ク一度ヒ之レニ罹レハ斃  
ル、モノ多ク好シ治癒シタリトスルモ往々不具ノ疾病ヲ後ニ貽  
スコトアレハコソ吾人カ危険ノ疾病トシテ怖ル、所以ナレ

### 第二 流行歴史

本病ハ歐洲ニ於テ太古ヨリ流行セシモノニ相違ナキモ之レヲ舉  
證スルコト難シサレトモ百年前ニ於テゲンフ(瑞西國)ニ流行シ  
タルハ慥カニ眞ノ流行性腦脊髄病ニシテ先ツ之レヲ以テ歐洲ニ  
於ケル初發流行ト認ムヘキナリ其以來ハ歐洲各地ニ於テ時々流  
行ヲ見タリ

本邦ニ於テモ明治三十四年以來和歌山、大阪、兵庫、横濱、鹿兒島  
熊本等ニ續々本病ヲ發生シ本年ニ至リ東京ニ於テモ數十名ノ病  
者ヲ發生スルニ至レリ其狀況ヨリ察スルニ本病ハ我邦ニ於テ年

々ニ廣ク蔓延シ來リタルヲ以テ吾人ハ之レニ對スル充分ノ覺悟  
ナカルヘカラザルナリ

### 第三 原因

本病ハ流行性ニ現ハル、疾病ナルヲ以テ特異ノ病原細菌ノ作用  
ニ因ルナラントハ往時ヨリ學者ノ豫想セシ處ナリシカ細菌學ノ  
發達スルニ至リ果シテ之レカ病原タル細菌ヲ發見スルニ至レリ  
然ルニ本病ハ「フレンケル」氏肺炎菌タル雙球菌カ腦脊髄内ニ進  
入シテ發スル「モアル」氏世人ハ「ワイクゼルバウム」氏ノ發見セ  
ル雙球狀ノ細菌コソ當然ノ本病々病原ナリト認定スルニ至レリ  
此「ワイクゼルバウム」氏ノ發見シタル細菌ハ豆形ノ球菌二個連  
結セルモノニシテ之レヲ腦脊髄膜炎菌ト稱シ人工培養基ニ培養  
スレハ發育シテ限ナク其數ヲ増殖スルノ性アリ又人體ニ此細菌  
ノ寄生スルレアハ好シテ腦脊髄膜ニ寄生スルノ性アリ即チ夫レ  
カ爲メニ腦脊髄膜炎ヲ發スルナリ



左レハ本病ノ病原體ハ生活セル細菌ナレハ此モノ甲ヨリ乙ニ傳  
ハリテ以テ傳染スルノ性アリ之レ本病カ流行ヲ來ス所以ニシテ  
亦甚恐ルヘキ所以ナリ  
偕此細菌ガ如何ニシテ腦脊髓膜ニ迄侵入シ得ベキヤト問フニ即  
チ左ノ二道ヨリス

(甲)

本菌ハ先ツ鼻腔ノ粘膜ニ附着シテ爰ニ彼レカ巢窟ヲ構  
ヘ終ニハ漸次ニ腦内ニ侵入スルニ至ル是レ鼻腔ト腦腔ノ  
間ニ於ケル骨層カ極メテ粗薄ニシテ細菌ノ腦内侵入ニ極  
メテ便利ナレハナリ

(乙)

右ハ腦脊髓膜炎菌カ近道ヲ選ヒテ直接ニ腦腔ニ侵入シ  
タル場合ナルモ亦遠路ヲ迂曲シテ腦内ニ達スルヲアリ即  
チ本菌ハ先ツ咽頭ノ扁桃腺ニ寄生シ次テ先ツ一度ヒ血液  
ニ這入りタル後血流ニ隨ヒテ腦内ニ漂流シ終ニ爰ニ寄生  
増殖シテ腦脊髓膜炎ヲ發スルニ至ル

サレハ其流行性腦脊髓膜炎菌カ如何ニシテ鼻腔及咽頭ニ來ルカ  
即チ如何ニシテ甲ヨリ乙ニ傳染スルカト問フニ先ツ其病源地ノ  
何タルヲ知ラサルヘカラス

即チ本病ノ病原菌ハ患者ノ腦脊髓液中ニ常ニ混在スルモノナレ  
トモ該液ハ堅牢ナル骨層ノ内部ニ貯留スルモノニシテ敢テ體外  
ニ排出スルモノニアラス從テ該液ハ傳染上大ナル意味ヲ有スル  
ニアラス然ルニ本菌ハ既ニ述ヘタルカ如ク先ツ鼻咽喉頭ニ巢窟ヲ  
構ヘ次ニ深部ニ侵入スルモノナレハ却ツテ其鼻及ヒ咽頭粘液カ  
他ノ健康者ニ傳染スル處ノ病源地タルナリ  
然ラハ其鼻咽喉粘液ナル病源地ヨリ如何ニシテ健康者ニ傳ハル  
ヤ是レ第二ニ來ル當然ノ問題ナリ

此病菌ハ人體外ニ在リテハ決シテ天然生育ヲ遂ク得ベカラサルモノ  
ナレハ本病ノ傳染ハ必ス人ヨリ人ノ間ニ於テ行ハル、者ナリサ  
レハ甲ナル病者カ噴嚏又ハ咳嗽ヲ爲ス等ノ時ニ鼻咽喉頭ノ有毒粘



液飛散シテ病者ニ接セル健康者ニ傳染ス是レ即チ直接傳染ナリ  
如此直接傳染ハ元ヨリ無キニアラスト雖モ多クハ間接ニ傳染ス  
間接傳染ノ場合左ノ如シ

(甲) 既ニ述ヘタル如ク本病ノ病毒ハ患者ノ咽頭及鼻腔ノ粘  
液ニ生住セルヲ以テ鼻液ヲ拭ヒタル鼻紙「ハンカチーフ」又  
口ニ觸レタル飲食器、咯痰等ニハ恐ルヘキ病毒ヲ含ミ又患  
者ノ衣服、蒲團並ニ病室モ亦病毒ノ爲メニ汚染スルヲ以テ  
是等物件ノ媒介ニ依リテ健康者ニ傳染ス即チ流行性腦脊髓  
膜炎菌ハ乾燥スルモ數十日間生活ヲ保存スルヲ以テ右等ノ  
物件ニ附着セル汚物ハ塵芥ト共ニ氣中ニ飛散シ得ヘク隨ツ  
テ其有毒空氣ヲ吸入スルトキハ則チ其病菌ハ健者ノ鼻咽喉  
等ニ附着シ以テ爰ニ感染ヲ來スヘシ

(乙) 本病ノ病毒ヲ受ケタル人必スシモ發病スルニ至ラス故  
ニ流行時ニ於テ健康者ノ鼻咽頭液ヲ顯微鏡トニ照ストキハ

往々此病菌ヲ檢出スルコトアリ

是レ各自ノ體質ノ異ナルニ依テ然ルモノニシテ斯ル人ハ本  
菌ガ只鼻咽頭ニ於テ生住シ得ルモ深ク腦脊髓膜ニ侵入シ得  
ル約束ヲ有セサルニ因ス

斯カル不感性ノ人ハ病毒ヲ受クルモ敢テ疾病ヲ自覺スルナ  
シト雖モ其恐ルヘキ病毒ハ依然トシテ鼻咽頭ニ生住スルヲ  
以テ乙ナル健康者ニ傳染ヲ來スコト敢テ病者ニ於ケルト異  
ナルナシ故ニ斯カル不感性ノ者ハ實ニ危険ニシテ傳染豫防  
上ヨリ云フトキハ病者ヨリ尙恐ルヘキ傳染媒介者ナリトス

第四 誘 因

前項ニ於テ本病ノ病毒ハ所謂流行性腦脊髓膜炎菌ニシテ直接殊  
ニ間接ノ徑路ヲ執リテ傳染スルモノナルコトヲ釋ケリ然ルニ其  
病菌カ鼻咽頭ヨリ深ク腦脊髓膜ニ侵入スルニハ一定ノ誘因アリ  
テ之レニ添フルトキハ尙ホ容易ナリ例之ハ只鼻咽頭ニ病菌ヲ受



ケタルノミニシテ敢テ本病ヲ發スルニ至ラスシテ終ルヘキモノ  
モ一朝感冒ニ罹ルカ又ハ塵芥煙烟等ヲ吸入シタルカ爲メ鼻咽頭  
粘膜ノ加答兒ヲ發シ其粘膜ノ抵抗力減弱シタル好機ニ乘シテ爰  
ニ生住スル病菌深ク腦脊髓ニ侵入シ得ルニ至ルカ如キ是ナリ

第五 豫防法

本病豫防法ニ就テハ先ツ前述ノ原因誘因ノ條下ヲ熟知スレハ自  
カラ了解シ得ヘシ即チ左ノ諸項ヲ守ラサルヘカラス

- 一 流行時ニ於ケル一般ノ心得
- 一 少シニテモ寒胃ニ罹リタル模様アリ殊ニ鼻咽頭ニ故障ヲ生  
シタル憾アルトキハ直チニ醫師ニ就キ診察ヲ乞フヘシ
- 一 此時ニ於テ其鼻咽頭粘液ノ細菌検査ヲ行ヘハ本病ナルヤ否  
ヤヲ容易ニ診斷シ得ヘケレハナリ
- 一 鼻咽頭ヲ病マシムヘキ事件ハ一切避ケサルヘカラス即チ寒胃ニ  
罹ラサル様注意セサルヘカラス塵芥煙烟等ヲ充チタル空氣

ヲ吸フヘカラス、咽頭ヲ損スル様ノ刺戟物ヲ飲食スヘカラス

二 病者ヲ發生シタル時ノ心得

- 一 醫師ノ診察ニ依リ流行腦脊髓膜炎ト決定スルハ一定ノ病院  
ニ入院ルヌチ最モ適當トス若シ已ヲ得ナクハ自宅療養ヲ行ヒ看  
護者ヲ一定シテ他ノ家族ノ可及的其病間ニ入ラシメサルヲ要ス
- 一 患者ノ使用スル並ニ病室ニ入レタル一切ノ物件ハ猥リニ室  
外ニ運フヘカラス即チ病中ハ患者ノ專有トナスヘシ
- 一 患者ノ飲食器ハ每使用後熱湯ニ沈テ煮沸スヘシ
- 一 咯痰鼻液及之レヲ拭ヒタル紙、布片ノ如キハ他ニ散亂セザ  
ル様注意シ且ツ最モ嚴重ニ消毒セサルヘカラス即チ此等ノ  
汚物ハ先ツ一定ノ有蓋器ニ納メ置キ之レニ一握ノ洗濯曹達  
ヲ投シ次テ沸騰湯ヲ其器ノ滿注シ之レヲ攪拌スルノ後蓋ヲ  
掩ヒ其冷ユルニ至ル迄放置スヘシ殊ニ火上ニテ一度ヒ煮沸  
スルヲ最モ安全トス



第八章

トヲホーム

- 一 病室ハ極メテ清潔ナルヲ要ス但シ掃除ニハ采配並ニ箒ヲ用  
スシテ濕布ヲ以テ拭掃スヘシ但シ之レヲ用ヒタル濕布ハ用  
後煮沸スルカ又ハ二十倍石炭酸ニ浸シテ消毒スヘシ
- 一 看護者ハ其室内ニ飲食スヘカラス又汚物ニ觸レタルトキハ  
勿論食時ニ際シテハ二十倍石炭酸水ニテ手指ヲ消毒スヘシ
- 一 病者ノ家族ニシテ醫師ノ細菌診斷上病菌ヲ認ムルトキハ萬  
事病者同様ノ注意ヲ以テ豫防法ヲ實行スヘシ
- 一 三 患者ノ快復又ハ死亡シタル時ノ心得
- 一 患者ニ使用シタル一切ノ物品ハ蒸氣消毒法ヲ行フカ又ハ二  
十倍石炭酸水或ハ千倍昇汞水ニテ消毒スヘシ
- 一 病室ハ「フオルマリン」瓦斯消毒法ヲ行ヒ尙疊建具ハ日光ニ  
曝露スヘシ
- 一 快復者又ハ看護者ハ鼻咽頭ノ細菌診斷ニ依リ若シ病菌ヲ檢  
出スルキハ病者ニ對スルト同様ノ豫防消毒法ヲ實行セサルヘカラス



第八章

トラホーム

- 一 病室ハ極メテ清潔ナルヲ要ス但シ掃除ニハ采配並ニ箒ヲ用  
スシテ濕布ヲ以テ拭掃スヘシ但シ之レヲ用ヒタル濕布ハ用  
後煮沸スルカ又ハ二十倍石炭酸ニ浸シテ消毒スヘシ
- 一 看護者ハ其室内ニ飲食スヘカラス又汚物ニ觸レタルトキハ  
勿論食時ニ際シテハ二十倍石炭酸水ニテ手指ヲ消毒スヘシ
- 一 病者ノ家族ニシテ醫師ノ細菌診斷上病菌ヲ認ムルトキハ萬  
事病者同様ノ注意ヲ以テ豫防法ヲ實行スヘシ
- 一 三 患者ノ快復又ハ死亡シタル時ノ心得
- 一 患者ニ使用シタル一切ノ物品ハ蒸氣消毒法ヲ行フカ又ハ二  
十倍石炭酸水或ハ千倍昇汞水ニテ消毒スヘシ
- 一 病室ハ「フオルマリン」瓦斯消毒法ヲ行ヒ尙疊建具ハ日光ニ  
曝露スヘシ
- 一 快復者又ハ看護者ハ鼻咽頭ノ細菌診斷ニ依リ若シ病菌ヲ檢  
出スルキハ病者ニ對スルト同様ノ豫防消毒法ヲ實行セサルヘカラス



第八章

トヲホーム

●「トヲホーム」豫防心得告諭

●長野縣告諭第一號

明治四十一年  
六月五日

「トヲホーム」ノ發病ハ徐々ニシテ其經過モ亦極メテ緩慢ナルニ  
ヨリ之カ治療ヲ等閑ニ附シ去ルノ結果今ヤ縣下一般ニ蔓延スル  
ニ至レリ今ニシテ其病毒ノ傳播ヲ防遏スルノ策ヲ講セスンハ獨  
リ個人ノ不幸ナルノミナラス延ヒテ縣下諸般ノ發展上影響ヲ及  
ホスヘキヲ以テ各自宜シク左ノ事項ヲ守リ豫防上遺憾ナキ様篤  
ク注意ヲ加フヘシ

- 一 眼病ニ罹リタルモノハ速カニ醫師ノ診療ヲ受クルコト
- 一 視力ノ過勞ハ本病ノ誘因ナルニヨリ日光ト燈火トヲ問ハス  
總テ弱キ光線ノ下ニ在リテ業務ヲ執ラサル様注意スルコト
- 一 塵埃、煤煙、強風其他日光及燈火ノ直射等ハ眼ヲ刺戟シ本病



ノ誘因トナルヲ以テ平素注意シテ之レ等ノ害ヲ避クル様心掛クルコト

- 一 家族中本病ニ罹リタルモノアルトキハ洗面器、手拭、食器ハンカチーフ、臥具等ノ共用ヲ爲サス之ヲ區別シ置キ患者用ノ物品ハ時々之ヲ洗滌シ又ハ日光ニ曝ラスコト
- 一 神社、佛閣、學校、工場、劇場、寄席、旅舎、料理店、湯屋、宿屋、其他多人數ノ群集スル場所ニ於テハ手拭類ノ共用ヲ爲サ、ルコト
- 一 本病者入浴スルトキハ浴槽内ニ於テ洗眼セサルコト
- 一 健康者入浴スルトキハ浴湯ノ眼ニ入ラサル様注意シ浴後ハ直ニ清水ヲ以テ顔面及手指等ヲ清潔ニスルコト
- 一 病眼ヲ拭フニハ柔カニシテ清潔ナル布片類又ハ棉花ヲ用キ使用後ハ之ヲ煮沸シタル后投棄スルカ又ハ焼却スル事
- 一 本病ニ罹リタルモノハ初期ニ於テ醫療ヲ受ケ全治ニ至ルマ

テ忍耐繼續スルコト

- 一 本病毒ハ一般傳染病毒ノ如ク不潔ノ場所ニ繁殖スルヲ以テ住居及身体ヲ清潔ニシ室内ハ常ニ光線ノ射入空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 一 可成患者ト接近セサルコト
- 一 患者ハ公德ヲ重ンシ可成群集ノ場所ニ立入ラサルコト

●「トラホーム」檢診方

●長野縣令第三十四號

明治四十二年 五月三日

「トラホーム」豫防ノ爲市町村長ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ場所ニ於テ檢診ヲ受クヘシ但現ニ檢診醫ノ診療ヲ受クル者又ハ其證明書ヲ有スル者ハ此限ニアラス

●「トラホーム」豫防規程

●長野縣訓令第三十九號

明治四十二年 五月五日



郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

二六四

「トラホーム」豫防規程左ノ通定ム

「トラホーム」豫防規程

第一條 「トラホーム」豫防ノ爲市町村長ハ毎年一回毎戸ニ就キ又ハ日時場所ヲ指定シ住民一般ヲシテ醫師ノ檢診ヲ受ケシムヘシ

第二條 警察官吏ハ檢診ノ際必ス立會ヲ爲スヘシ

第三條 檢診ヲ終リタルトキハ市町村長ハ左ノ様式ニ依リ大字毎ニ患者名簿ヲ製作シ所轄警察官署巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ回送スヘシ

番	地	氏	名	年	齡

第四條 多數ノ雇人ヲ使役スル工場製造所等ニ對シテハ特ニ日時ヲ指定シテ檢診セシメ且常ニ豫防施設ノ方法ヲ勵行セシムベシ

第五條 病氣其他ノ事故ニ依リ第一條ノ檢診ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ更ニ檢診ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 市町村長ハ第一條及第五條ノ檢診ヲ受ケタル後「トラホーム」ニ罹リタル者アルトキハ本人ヲシテ警察官吏ニ通告セシムヘシ

第七條 市町村長及警察官吏ハ常ニ患者ノ治療ノ狀況ヲ視察スヘシ

第八條 貧困ニシテ治療ヲ爲ス能ハサル者ニ對シテハ市町村ニ於テ治療ノ方法ヲ講スヘシ

二六五



第九條 當該吏員ハ明治四十一年六月告諭第一號「トラホーム」豫防心得ヲ一般ニ周知セシムルノ方法ヲ講スヘシ

●「トラホーム」豫防規程取扱心得

●警發第二九六號 明治四十二年 二月十三日 警察署長 警察分署長

「トラホーム」檢診ニ關スル義ニ付指示

- 「トラホーム」豫防ニ關シ先般縣令第三十四號及訓令第三十九號發布相成候ニ付テハ左ノ各項ニ依リ取扱ハルヘシ
- 一 市町村ニ於テ「トラホーム」檢診ヲ行フトキハ受持巡查ヲシテ立會ハシムルハ勿論市町村長ニ助力シ且衛生組合ノ活動ヲ促カシ檢診ニ漏ル、者ナキ様注意スルコト
- 二 檢診ノ際ハ必ス告諭ノ趣旨ヲ懇諭シ豫防及治療上遺策ナキヲ期スルコト
- 三 市町村長ヨリ患者名簿ノ回送ヲ受ケタルトキハ受持巡查ニ

於テ重症輕症ノ區別ヲ記シ其他轉歸移轉等ノ加除訂正ヲ怠ラサルコト

- 四 受持巡查ハ戸口調査警邏查察等ノ際患者ノ症狀ヲ視察シ豫防及治療ヲ怠ラサル様注意シ尙ホ一面ニ於テ衛生組合ヲシテ常ニ是等ノ点ニ注意セシムルコト
- 五 若シ市町村長ニシテ貧困患者ノ治療ヲ怠ル者アルトキハ適當ノ注意ヲ加ヘ其治療ヲ實行セシムルコト
- 六 患者ノ治療ニ要スル点眼藥及洗滌藥等ニ付テハ市町村長及市町村醫ト協商ヲ遂ケ可成廉價ニテ供與スルノ方法ヲ取ル事壯丁ニシテ「トラホーム」ニ罹リタル者ニ對シテハ嚴密視察ヲ加ヘ決シテ治療ヲ怠ラシメサルコト
- 七 工場製造所又ハ料理店、飲食店、貸座敷、旅人宿、理髮業者其他多數ノ出入スル業務者ニ對シテハ特ニ注意シ豫防及治療ノ方法ヲ勵行セシムルコト
- 八







第九章 種

痘

市町村名	醫師雇人延日數	檢診費	
		醫師給	其他計
計			
何町			
何村			
計			

二七〇

トラホーム 檢診費補助セサル件

●警察部長通牒 明治四十三年一月廿六日 發第二九號各郡市長宛  
 トラホーム 檢診ニ要スル費用ニ關シ市町村ノ支出額及市町村カ  
 衛生組合ニ對シ全費用ヲ補助シタル金額ニ付テハ市町村傳染病  
 豫防費補助規程ニ依リ補助セラルヘキヤ否ヤ御問合之向モ有之  
 候處右ハ該規程ニ依リ補助可相成モノニ無之候條爲念此段及通  
 牒候也



第九章 種

痘

市町村名	醫師雇人延日數	檢診費	
		醫師給	其他計
計			
何町			
何村			
計			

トラホーム檢診費補助セサル件

●警察部長通牒 明治四十三年一月廿六日 發第二九號各郡市長宛  
 トラホーム檢診ニ要スル費用ニ關シ市町村ノ支出額及市町村カ  
 衛生組合ニ對シ全費用ヲ補助シタル金額ニ付テハ市町村傳染病  
 豫防費補助規程ニ依リ補助セラルヘキヤ否ヤ御問合之向モ有之  
 候處右ハ該規程ニ依リ補助可相成モノニ無之候條爲念此段及通  
 牒候也



# 第九章 種痘法

## ●種痘法

●法律第三五號 明治四十二年四月十三日

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

第二期 數ハ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス  
第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負

第三條 左ニ掲タル者ハ未成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ



者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

一 學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長

二 教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者ヲシテ六ヶ月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ届出ツヘシニ於テハ區長以下之ニ準ス未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル

場合ト雖モ前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日

ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第

三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコ

トヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ証ヲ交付

スヘシ

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至

リタル者ヲ戶籍吏ニ通知シ戶籍吏ハ戶籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以

テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戶籍法第五條ノ規定ヲ準用



第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル証跡不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル証跡不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一類第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テハ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ  
市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟証ヲ交付スヘシ  
第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採取スルコトヲ得

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘証ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘証ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條 醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過証ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ揭示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得  
臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師虚偽ノ種痘証ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘証ヲ交付シタルトキハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス



第十七條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル

期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ

科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項

及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ

行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主

戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ

者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル

地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケ

タルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘、數ヘ歳

八歳以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看

做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付

テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル証

跡不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

●種痘法施行規則

●内務省令第二六號

明治四十二年  
十二月廿一日

第一條 市町村長

區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ  
施行セサル地ニ於テハ市町村長ニ準スベキモノヲ含ム以下



之ニ 毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現在人中左記各號ニ  
做テ 該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

一 前年中出生ノ者

二 數ヘ歳十歳ノ者

三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官 東京府ハ警視總監ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘  
以下之ニ做テ

ハラス種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告ス  
ヘシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未  
成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所

ニ於テ種痘ヲ受ケシムヘシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布埵利亞 格魯布、チ含ム、丹毒、麻疹、

百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムル時ニハ別  
ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ハ保護者又ハ種痘法第三條ノ  
義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十

日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遅クモ  
次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種  
痘ヲ行フヘシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ  
間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條 種痘濟証、種痘証及種痘猶豫証ハ附錄様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ  
種痘濟証交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地



ノ戸籍吏ニ通知スハシ

一 第一期種痘善感シタル者

二 第一期第二期ノ種痘不善感ナル者

三 第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戸籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘

法第八條ニ依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於

テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ

市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ

醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ

之ヲ爲スヘシ

前項ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請

求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ

要セザルコトヲ證明スル者ハ種痘濟証又ハ種痘證ヲ提示スル

コトヲ要セス

一 痘瘡經過證

二 種痘猶豫証

三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業

證書又ハ保育證書ノ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入ア

ル戸籍謄本又ハ抄本

五 市町村長ノ證明書

六 種痘又ハ痘瘡ノ癍痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ証跡

第十三條 地方長官ハ臨時種痘ヲ命セムトスルトキハ内務大臣

ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施



行

様式

(用紙赤色紙)

第一號(第一期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟証

住所 道府縣郡市區町村某

何

某

年月生

年月種痘(第 回)善感ノ者ニ

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ証ス

道府縣郡

市町村長 何

某 印

注意 此証ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請

求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

(用紙赤色紙)

第二號(第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘濟証

住所 道府縣郡市區町村某

何

某

年月生

年月種痘(第二期)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ証ス

道府縣郡

市町村長 何

某 印

注意 此証ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請

求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

用紙青色紙



第三號(第二期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某<sub>女男</sub>

何

某

年 月 日生

右第二期種痘(第 回)善感 顆

年 月種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年 月 日

市町村長 何

某 印

注意 (此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

(用紙青色紙)

第四號(第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市町村某<sub>女男</sub>

何

某

年 月 日生

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年 月 日

市町村長 何

某 印

注意 (此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

(用紙白紙)

第五號(第二期又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期第一回種痘濟證



住所 道府縣郡市町村某女

年月生

第五號(第一回) 不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

道府縣郡 市町村長 何

某印

年月日

注意 (此証ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

第六號(第一期第一回又ハ同第二期ニ善感ノ者ニ交付スルモノ) 第一期種痘証

住所 道府縣郡市町村某女 何 某

年月生

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ証ス

道府縣郡市區町村

醫師 何 某印

注意

(此証ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

第七號(第一期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ) 第一期種痘証

住所 道府縣郡市區町村某女

何 某

年月生

右第一期種痘(第二回) 不善感



右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ証ス

道府縣郡市區町村

年月日

某

注意

（此証ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之コ代ルヘキ証明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

第八號（第一期第一回又ハ同第二期ニ善感ノ者ニ交付スルモノ）

第二期種痘証

住所 道府縣郡市區町村某女

何 某

年月生

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ証ス

道府縣郡市區町村

年月日

某

年月日

注意

（此証ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ）

第九號（第一期第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ）  
第二期種痘証

住所 道府縣郡市區町村某女

何 某

年月生

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ証ス

道府縣郡市區町村

年月日

某

注意 此証ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請



求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキ  
トキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第十號 (第一期第一回又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交  
付スルモノ)

第一期第一回種痘証

住所 道府縣都市區町村某男  
女

何 某

年月生

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

道府縣都市區町村

年月日 醫師何 某 印

注意 (此証ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請  
求アルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキト

第十一號 (用紙白紙)  
第六號 拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第二期種痘猶豫証

住所 道府縣都市區町村某男  
女

何 某

年月生

右者(何々病)ノ爲種痘法第七條ニ依リ(治癒ニ至ル)迄種痘ヲ猶豫

ス但シ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ前記ノ(疾病治癒)  
(事故消滅)  
(期間經過)

シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

道府縣郡

市町村長 何 某 印

年月日

注意 (此証ハ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求ア  
ルトキ此証ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ証明ナキトキ  
ハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ)



種痘施術心得

●内務省告示第一七九號

明治四十二年十二月廿一日

第一條 種痘ニ要スル痘苗ハ牛痘苗ヲ用スヘシ

第二條 痘苗ハ冷暗所氷室、地下室、又ハ深井内等ニ貯藏シ製造所ノ指定シタル

第三條 痘苗ノ接種量ハ製造所ノ指定ニ從フヘシ

第四條 痘苗使用ノ際ハ其ノ内容ヲ漿盤上ニ出シ能ク之ヲ攪拌

混和スヘシ

第五條 痘苗接種ノ部位ハ上膊ノ伸側ヲ可トス

第六條 接種ニ臨ミテハ先ツ局所ヲ「アルコホル」又ハ他ノ消毒藥液ヲ

以テ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」又ハ脫脂綿ヲ以テ丁寧ニ

之ヲ拭淨スヘシ

第七條 種痘ノ場所ハ相當廣濶ニシテ清潔ナル場所ヲ選ヒ其ノ

換氣、採光、煖室ニ注意スヘシ

第八條 施術者ハ成ルヘク上衣ヲ着シ且豫メ手指ヲ消毒スヘシ

第九條 漿盤及種痘針ハ使用ニ先チ「アルコホル」又ハ他ノ消毒

藥液ヲ以テ之ヲ消毒シ次ニ滅菌シタル「ガーゼ」ヲ以テ之ヲ拭

淨スヘシ但シ適當ナル他ノ消毒方法依ルモ妨ナシ

第十條 種痘針ハ受痘者一人毎ニ前項ニ依リ之ヲ處置スヘシ

第十一條 接種ノ方法ハ切種式ニ依ル即ハチ局部ノ皮膚ヲ緊張シ

相當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺

キ十字切長サ一分、乃至二分若ハ單線切長サ約三分ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ

以テ痘苗ヲ擦入スヘシ

第十二條 切種ニ際シテハ成ルヘク出血セサル様注意スヘシ僅ニ紅痕ヲ

呈スルヲ以テ適度トス

第十三條 接種數ハ第一期種痘ニ在リテハ右上膊四切乃至六切、

第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五

二九三



分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキハ他側又ハ他ノ部位接種スルモ妨ナシ

第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康状態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ハ成ルヘク種痘ヲ猶豫スヘシ但シ第四號ヲ除ク外痘瘡流行ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 出生後九十日未滿ノ者
  - 二 著シク營養障害ニ陥レル者
  - 三 蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者
  - 四 熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者
- 第十二條 檢診ノ場合ニ於テ注意スヘキ要項左ノ如シ
- 一 定型痘疱二顆以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘以後ニ在リテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水泡ヲ生シタルモノモ亦善感トス
  - 二 接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生シタルモノ

潰瘍ニ陥リ若ハ痂皮ヲ結ヒタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス  
第十三條 施術者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其ノ保護者ニ對シ種痘後注意スヘキ事項ヲ指示スヘシ

### ●種痘法第八條ニ依ル符號記入方ノ件

●司法省令第二二號 明治四十二年十二月廿四日

第一條 戶籍吏カ種痘法第八條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ戶籍ノ欄外氏名ノ下ニ左ノ區別ニ從ヒ符號ヲ記入スヘシ

善感者ナルトキ



直徑三分

不善感者ナルトキ



高サ三分

第一期種痘施行前痘瘡ナ  
經過シタル者ナルトキ



方三分



第二條 戶籍吏ハ毎年十二月末日迄ニ前年中出生ノ本籍人ニシテ其ノ戶籍ニ前條ノ記入ナキモノノ本籍地及ヒ氏名ヲ市町村長ニ通知スヘシ

附 則

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●種痘法施行手續

●長野縣訓令第七十二號 明治四十三年七月一日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

種痘法施行手續左ノ通定ム

種痘法施行手續

第一條 市町村長ハ種痘ノ期日及場所ヲ公告シタルトキハ種痘ヲ要スル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ漏ナク之ヲ通告スヘシ

前項ノ通告ヲ爲シタルトキハ郡長及警察官署長ニ通報ス可シ

第二條 郡長警察官署長ハ種痘實施ノ狀況ヲ監査シ種痘ノ完成ヲ期スヘシ

第三條 市町村長ハ種痘法施行規則第一條第二項ニ該當スル事情アルトキハ其事由並ニ期日ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第四條 市町村長ハ毎年二月末日マテニ第一號様式ニ準シ第一期及第二期種痘簿ヲ編製シ所定ノ事項ヲ記入スヘシ

第五條 市町村長ハ種痘法第四條第二項ノ届出ヲ受ケ又ハ第七條第二項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ種痘ヲ要スル者ノ住所氏名及其ノ保護者若ハ義務者ノ住所氏名ヲ速ニ警察官署長ニ通報スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ之ニ代ル可キ者ニ左ノ事項ヲ記載シタル指示書ヲ交付スヘシ

一 清潔ナル襦袢ヲ着用セシムルコト



- 二 感冒ノ豫防ニ注意シ接種後數日間ハ可成全身浴ヲナサシメサルコト
- 三 接種ノ部位ハ摩擦搔爬又ハ汚染セサル様注意セシムルコト
- 四 接種部附近ニ腺腫ヲ生シタルトキ發熱高キトキ又ハ潰瘍ヲ生スルノ傾アルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケシムルコト
- 五 檢診期日ハ檢診場所ニ依リテ定ムルコト
- 六 檢診期日ニハ相違ナク檢診所ニ出頭スヘキコト又ハ檢診期日但シ不止得事由アルキハ其當日マテニ事由ヨリ具シ届出ル事
- 七 種痘濟證ハ大切ニ保存スルコト
- 第七條 相當ノ事由ニ依リ檢診ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ其住所ニ就キ檢診ヲ施行スヘシ
- 第八條 種痘濟證ハ檢診ヲ了シタル當日之ヲ交付スヘシ
- 第九條 市町村長ハ學校、育兒院、製造所其他之ニ準スヘキ場所ノ首長ニ協議シ種痘及檢診ヲ行ハシムヘシ

- 第十條 市町村長ハ衛生組合長ヲシテ組合内ノ種痘ヲ要スル者ノ保護者等ニ對シ種痘期日ニ種痘ヲ受クヘキコトヲ注意セシメ可成之ヲ引卒出頭セシムヘシ
- 第十一條 市町村ニ於テハ種痘法施行規則第一條ニ依ルノ外種痘法第四條第二項第七條第二項及第九條ニ該當スル者ニ對シ十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ於テ日時及其場所ヲ指定シ種痘ヲ施行スヘシ
- 第十二條 市町村長ハ學齡簿ニ種痘ニ關スル事項（第何期種痘完了、善感痘瘡經過）ヲ記入スヘシ
- 第十三條 郡市長ハ小學校幼稚園ノ學籍簿及其兒童又ハ幼兒ニ與フヘキ修業証書卒業証書若ハ保育証書ニ種痘ニ關スル事項（第一期種痘年月日、第二期種痘年月日、痘瘡經過年月日）ヲ記入セシムヘシ
- 第十四條 種痘濟證ハ保存ニ便ナラシムル爲メ厚紙ヲ以テ調製シ縦五寸五分横四寸五分トスヘシ







ニハ前年若ハ其年第一回ノ種痘不善感ナリシ爲メ更ニ種痘ヲ行ヒタルモノヲ記入スヘシ

一 檢診未了人員ノ第一回欄ニハ其ノ定期第一回ノ種痘ヲ行ヒタル儘未タ檢診ヲ了セサルモノヲ記入シ第二回欄ニハ第一回種痘不善感ナリシ爲更ニ種痘ヲ行ヒタルモ未タ其檢診ヲ了セサルモノヲ記入スヘシ

●種痘事務整理順序

●警收第一六七一號

明治四十三年四月四日

(各郡市長宛)

種痘ニ關スル事務整理順序別紙ノ通衛生局長ヨリ通牒越候條右ノ趣旨ニ準シ整理候様御取計相成度此段及通牒候也

市區町村種痘事務整理順序

第一條 市區町村長(之ニ準スヘキモノ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル

間ニ於テ前年中出生ノ者數ヘ年十歳ノ者及前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者(第十條第三號乃至第五號及第十二條參照)ノ種痘期日ヲ指定スルコト

前項ノ種痘期日ハ公種痘(市區町村ニ於テ施行スル種痘ヲ謂フ)施行期間ノ最終日トスルコト但シ市區町村内ノ字等ニ依リ種痘期日ヲ異ニスルモ妨ナシ

第二條 市區町村長ハ受痘者ノ豫定員數ニ應シ(醫師一人一日ノ種痘人員二百人以内)

算シ)公種痘施行ノ期間及其場所ヲ定メ種痘期日ノ指定ト其ニ豫メ之ヲ公告スルコト

市區町村長ハ前項公告ノ外種痘簿、種痘票、學齡簿等ニ依リ種痘定期ニ在ル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ其ノ保護又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ノ指定公種痘施行ノ期間及其場所ヲ漏ナク通知スルコト

第三條 種痘法施行規則第四條ノ患者(痘瘡、猩紅熱、實布挫里亞、格魯布)ヲ含ム丹毒淋疹百日咳)



アル家ノ受痘者ニ付テハ公種痘施行ノ日時又ハ場所ヲ別ニ定メ之ヲ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ通知スルコト

第二 公種痘施行ノ準備

第四條 種痘ハ市區町村醫ヲシテ之ヲ施行セシメ又ハ相當技能アル醫師ニ之ヲ囑托スルコト但シ便宜數町村協議シテ巡回種痘ヲ囑托スルモ妨ナシ

第五條 市區町村ハ痘苗ノ外種痘ニ要スル器械藥品ヲ準備スルコト其品目概ネ左ノ如シ

- 一 切種用種痘針
  - 二 漿 盤
  - 三 滅菌「ガーゼ」及脫脂綿、全上容器
  - 四 「アルコホル」又ハ「クレール」水若ハ其ノ他ノ消毒藥液
  - 五 「ペトリ」氏小皿及硝子製圓筒「コップ」ノ類
- 前項品目ノ數量ハ種痘人員ニ應シ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ定ム

ルコト

第六條 市區町村ハ種痘ヲ行フヘキ人員（受痘者ハ第一期及第二期ヲ合シ人口千ニ付毎年五十八

内外ナ普）ニ應シ痘苗其數ヲ豫算シ發送期日ヲ指定シテ一箇月前ニ傳染病研究所ニ請求スルコト

第七條 種痘施行ノ場所ハ受痘者ノ集合ニ便利ナル地區ニ於テ相當廣濶ニシテ可成清潔ナル個所ヲ撰定スルコト授業ヲ妨ケサル限リハ小學校等ヲ種痘所ニ充ツルヲ便宜トス

前項ノ種痘所ハ地區廣濶ナル市區町村ニ於テハ可成之ヲ數個所ニ設置スルコト

第八條 種痘所ニハ少クモ受痘者控室施術室ヲ區別シ各室トモ豫メ濕拭掃除ヲ行ヒ又換氣、採光ニ注意シ寒冷ナル日ニ在リテハ相當爐室ノ設備ヲ爲スコト

第九條 種痘簿ハ其年施行スル公種痘ノ用ニ供シテ其年ニ於ケ



ル公私種痘ノ成績ヲ明カニスル目的ヲ以テ編製スルモノトス  
第十條 市區町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙雜

形ニ準シ第一期及第二期種痘簿ヲ編製スルコト

一 戶籍簿身分登記及受寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人  
ヲ調査シ前年中既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル  
者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト但シ寄留等ノ  
届出ナキ現住人ノ警察官吏ノ通報等ニヨリ之ヲ調査シ登  
載スルコト

二 學齡等ニ就キ數ヘ年十歲ノ現住人ハヲ調査シ前年迄ニ痘瘡  
ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第二  
期種痘簿ニ登載スルコト但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ  
警察官吏ノ通報ニ依リ調査シ登載スルコト  
三 戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ  
受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ之ヲ第

一期種痘簿ニ登載スルコト

四 前年種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル  
者其ノ他前年ノ種痘簿ニ登載ノ者ニシテ前年中ニ痘瘡ヲ  
經過セス又ハ種痘ヲ完了セザルトキハ之ヲ第一期又ハ第  
二期種痘簿ニ登載スルコト

五 前各號ノ外學校、育兒院、製造所等ノ首長、警察官吏又ハ  
衛生組合長ノ通報、種痘法第四條第二項ノ届出其ノ他種  
痘法第十四條ニ依レル調査等ニ依リ種痘ヲ怠リタル者  
(種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ヲ含ム以下同シ)ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載ス  
ルコト

第十一條 市區町村長ハ種痘簿編製後種痘ノ指定期日マテニ前  
條ニ該當スル者其ノ市區町村内ニ來住シタルトキハ遲滯ナク  
種痘簿ニ登載スルコト

第十二條 市區町村長ハ前二條ノ外常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調



查シ之ヲ第一期又ハ第二期種種痘ニ登載スルコト  
前項ノ場合ニ於テ其年内ニ種痘ヲ完了サシメ難シト認ムル者  
ニ就テハ其ノ通報書届書調査書等ヲ一括保存シ翌年ノ種痘簿  
ニ登載スルコト

第十三條 市區町村長ハ種痘簿ニ登載ノ者種痘ノ指定期日マテ  
ニ死亡シ又ハ他市區町村ニ轉住シ若ハ一年以上居所不明ナル  
トキ又ハ痘瘡ヲ經過シタル爲種痘ヲ要セザルトキハ其ノ事由  
ヲ當該欄内ニ記シ氏名ノ欄ヲ朱線ニテ抹消スルコト

前項ノ外種痘簿記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ(既ニ種痘  
タル者ニ付テ)遅滞ナク之ヲ加除訂正スルコト  
第十四條 市區町村長ハ公種痘ヲ施行シタルトキ及種痘法第十  
二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遅滞ナク

種痘ノ月日、成績等ヲ種痘簿當該欄内ニ記入シ種痘ヲ猶豫シ  
タル者ニ付テハ備考欄内ニ其事由ヲ記載スルコト

其ノ年出生ノ者第一期種痘ヲ完了シ又ハ數ヘ歳八歳九歳ノ者  
第二期種痘ヲ完了シタルトキ其ノ他種痘簿ニ未登載ノ者種痘  
ヲ完了シタルトキハ之ヲ登載記入スルコト

第卅六條ニ依リ種痘施行ノ場合ニ於テ其ノ年内出生者ノ種痘  
ノ月日成績等ハ可成別ニ種痘簿ヲ調製シ之ニ登載記入スル事  
種痘簿編製前(一月一日ヨリ種痘  
簿編製ニ至ル間)私種痘ノ届出ヲ受ケタルハ其届  
書(口頭届出ナレ  
ハ控書ヲ作リ)ヲ保存シ種痘簿編製ノ際之ヲ登載記入スル事

第十五條 種痘簿ノ記入順序ハ受痘者ノ多數ナル市區町村ニ於  
テハ町名、字名若ハ番地ニ依リ適當ニ區別シ又ハ氏名ノ「イ  
ロハ」順ニ記入スル等搜索ニ便ラシムルコト

種痘定期ニ在ル者及種痘ヲ怠リタル者ニ付テハ可成各別ニ種  
痘簿ヲ調製スルコト  
種痘簿ハ十年間之ヲ保存スルコト

第四 種痘票ノ調製



第十六條 市區町村長ハ便宜第九條乃至第十五條ノ種痘簿ヲ編

製セス本條以下ニ依リ種痘票ヲ調製スルモ妨ナシ

種痘票ハ専ラ公種痘ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ調製スルモノトス

但第二十四條ニ依リ併テ私種痘ノ成績ヲ明ニスルノ用ニ供スルモ妨ナシ

第十七條 市區町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ別紙

雛形ニ準シ第一期及第二期種痘票ヲ調製スルコト

一 戶籍簿、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調製シ既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコト但シ寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト

二 學齡簿等ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘

瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第二期

種痘票ヲ調製スルコト但學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察

官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト

三 戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ

受ケタルトキハ他市區町村ニ轉居シタル者ヲ除キ第一期

種痘票ヲ調製スルコト

四 種痘法第四條第二項ノ届書、警察官吏衛生組合長ノ通報

書其他種痘ヲ怠リタル者ノ覺書等及種痘猶豫期限ノ經過

シタル猶豫願書並私種痘ノ第一回不善感届書ヲ取出シ種

痘票ヲ調製スルコト

五 前年ノ種痘票中種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘

不善感ナル者其ノ他未タ種痘ヲ完了セザル者ノ種痘票ヲ

取出シ本條各號ノ種痘票ト共ニ整理スルコト

六 各前號ノ外痘種ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ



其ノ種痘票ヲ調製スルコト

第十八條 市區町村長ハ種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當スル者其ノ市區町村内ニ來住シタルトキハ遲滯ナク其ノ種痘票ヲ調製スルコト

第十九條 種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ痘瘡ヲ經過シ若ハ私種痘ヘ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第二十四條ノ場合ヲ除ク外其種痘票ヲ廢棄スルコト又他市區町村ニ轉居シタル者ニ付テハ其ノ種痘票ヲ廢棄シ若クハ便宜之ヲ轉居地ノ市區町村長ニ送致シ轉居通報ノ用ニ供スルコト

種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ其ノ種痘票備考欄内ニ其ノ事由ヲ記入シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十條 市區町村長ハ常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ若直ニ種痘ヲ完了セシメ難キトキハ其ノ覺書ヲ調製シ他日ノ用ニ供スルコト

スルコト

第二十一條 第三十五條又ハ第三十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルトキ種痘票未調製ノ者ニ付テハ其ノ際之ヲ調製シ記入スル事

第二十二條 種痘票ハ使用後善感不善感猶豫不參等ニ依リ區分シ十年間之ヲ保存スルコト

第二十三條 種痘法第十二條第二項ノ私種痘ノ届書(口頭届出サレハ控書ヲ作リ)猶豫申請書、種痘法第四條第二項ノ届出警察官吏衛生組合長ノ通報書、未種痘者覺書等ハ一括保存スルコト

前項書類ノ保存期間ハ私種痘届書ハ十年間其ノ他ハ種痘完了又ハ種痘票調製済マテトス

第二十四條 市區町村長ハ事務ノ繁簡ニ依リ前條ノ届出、申請書、通報書、覺書等ニ代ヘ其ノ種痘票ヲ調製シテ保存スルコト

此ノ場合ニ於テハ私種痘票ニハ其ノ備考欄内ニ私種痘ト朱書スルコト



第五 種痘及檢診ノ施行

第二十五條 市區町村吏員ハ種痘所ニ臨ミ種痘事務ニ從事スル

コト

種痘所ニハ種痘簿又ハ種痘票ヲ配置シ種痘ノ月日成績等ヲ記入スルコト

第二十六條 相當ノ事由ニ依リ種痘所ニ出頭スルコト能ハサル

受病者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ種痘ヲ施行スル等適宜ノ方

法ヲ講スルコト

第二十七條 種痘所ニハ檢診期日及種痘後注意スヘキ事項ヲ掲

示シ且之ヲ口頭及覺書ヲ以テ保護者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ掲

示スルコト、其ノ注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 清潔ナル襦袢類ヲ着用セシムルコト

二 感冒ノ豫防ニ注意シ種痘後數日間ハ腰湯ノ類ハ妨ケナキ

モ可成全身浴ヲ禁スルコト

三 接種ノ部位ハ摩擦搔爬又ハ汚染セサル様注意スルコト

四 接種部附近ニ腺腫ヲ生シタルトキ發熱高キトキ又ハ潰瘍

ヲ生スルノ傾アルトキハ醫師ノ診察ヲ受クルコト

五 指定セラレタル檢診期日ニハ相違ナク檢診所ニ出頭スヘ

キコト但シ不得止事由アルトキハ其ノ當日マテニ事由ヲ

具シ届出スルコト

六 種痘濟證ハ大切ニ保存スヘキコト

第二十八條 檢診ハ種痘後第六日乃至第八日ニ種痘所ニ於テ醫

師之ヲ行ヒ市區町村吏員ハ其ノ事務ニ從事スルコト

第二十九條 檢診ノ當日相當ノ事由ニ依リ出頭スルコト能ハサ

ル者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ檢診ヲ行ヒ又ハ最寄醫師ノ檢

診ヲ受ケシメ其ノ種痘證ヲ指示シ又ハ其ノ寫ヲ添ヘ口頭若ハ

書面ニテ届出ヲ爲サシムルコト

第三十條 種痘濟證檢診ノ當日之ヲ交付スルコト



第三十一條 市區町村長ハ學校、育兒院、製造所其ノ他多數ノ兒童ヲ集合セシムル場所ノ首長ニ協議シ各自ニ醫師ヲシテ種痘及檢診ヲ行ハシメ又ハ兒童ノ來集スベキ種痘所及日時等ヲ打合ハセ種痘及檢診ヲ行フ

第三十二條 市區町村長ハ衛生組合長ヲシテ組合内ノ種痘未了者ヲ調査セシメ其ノ保護者等ニ對シ指定期日マテニ種痘ヲ受クヘキコトヲ戒告セシメ其ノ種痘所ニ來集スヘキ者ハ可成之ヲ引卒出頭セシムルコト但シ兒童ノ保護者等ニシテ兒童ヲ種痘所ニ出頭セシメ難キ事情アル者アルトキハ其ノ氏名住所等ヲ通報セシメ第二十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルコト

第三十三條 衛生組合ニ於テ種痘ヲ施行シタルトキハ便宜組合長ヲシテ保護者ニ代リ施術醫師ノ証明ヲ得種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ爲サシムルコト  
第三十四條 市區町村長ハ種痘簿、種痘票等ニ依リ指定期日マ

テニ種痘ヲ行ハサル者種痘猶豫期間ヲ經過シタル者其ノ他種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ限リ種痘ヲ催告スルコト  
前項期日マテニ種痘ヲ完了セサルトキハ種痘法施行規則第六條ニ依リ遅クモ次回ノ公種痘施行期ニ於テ更ニ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ヲ指定スルコト  
前項期日迄ニ尙故ナク種痘ヲ行ハサルモノアルキハ市區町村長ハ警察官吏ト協議シ其居所等ニ於テ種痘ヲ強制施行スル  
第三十五條 受痘者多數ナル市區町村又ハ海外諸港ト交通アル海港地ニ於テハ第二條ニ依ルノ外十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ於テ再ヒ公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ前條第一項ニ該當スル者及種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第六 人口五万以上ノ市區ニ於ケル種痘ノ施行



第三十六條

人口五万以上ノ市區ニ於テハ前各條ニ依ルノ外毎月(八月九月)一回以上公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ豫メ之ヲ公告シ出生後九十日ヲ經タル者其他種痘定期ニ在リテハ種痘ヲ受ケシムトスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第三十七條 市區町村長種痘期日ヲ指定シタルトキハ日傭稼人等勞働者ノ居住地域ニハ可成醫師及吏員ヲ派遣シ其ノ住所ニ就キ種痘及檢診ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト

第七 種痘ニ關スル通知記入

第三十八條 市區町村長ハ戶長戶籍吏又ハ他市區町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ他市區町村ニ轉居シタル者アルトキハ速ニ之レヲ轉居先ノ市區町村長ニ轉報スルコト

第三十九條 市區町村長ハ公種痘ヲ施行シ又ハ種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ第一期種痘ヲ完了シタ

ル者(善感シタル者及不善感ナル者)ヲ速ニ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スルコト第一期種痘前痘瘡ヲ經過シタルモノアルトキ亦同シ

第四十條 市區町村長ハ學齡簿編製ノ際之ニ種痘ニ關スル事項(第何期種痘完了第何期第何回)ヲ記入スルコト

前條ノ場合ニ於テ學齡兒童ナルトキハ其ノ第一期種痘ナルト第二期種痘ナルトニ拘ラス之ヲ學齡簿ニ記入スルコト第二期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第四十一條 市區町村長ハ小學校及之ニ類スル各小學校又ハ幼稚園ノ卒業證書修業證書又ハ保育證書ニ可成種痘ニ關スル事項(定期種痘完了又ハ痘瘡經過)ヲ記入セシムルコト

第八 種痘濟証及種痘証等ノ調製

第四十二條 種痘濟証保存ニ便ナラシムル爲可成厚キ西洋紙ニテ調製シ其ノ大サハ縦五寸五分横四寸五分ト爲スコト

第四十三條 市區町村ニ於テハ可成醫師ノ交付スヘキ種痘証用







### ●種痘施行上注意方

●警發第一六七號

明治四十三年  
四月二十一日

警察署長 警察分署長

種痘ニ關スル義ニ付指示

市町村ノ種痘事務整理ニ關シ今回別紙ノ通り各郡市長へ通牒置  
キ候ニ就テハ種痘ノ施行ハ豫メ種痘ヲ行フ必要アルモノヲ調査  
シ遺漏ナキヲ期スルハ最モ肝要ノ義ナリトス然ルニ人口多數ナ  
ル市街ニ於テ殊ニ寄留等ノ屈出ヲ怠リ居ルモノ尠ナカラサルヘ  
ク是等ニ對シテハ各戸ニ就キ調査遺漏ナキヲ期スルノ外他ニ不  
得止モノニ付キ各受持區巡查ニ於テ戸口調査施行ノ際ハ勿論其  
ノ他平索行務ニ際シ此点ニ注意シ種痘定期ニ在ル右等無届者ヲ  
發見シタル片ハ其都度市町村長ニ通報シ(便宜受持巡查ナシテ通  
報ヒシムルモ妨ナシ)又  
市町村長ニ於テ種痘期日ヲ指定シタル場合ハ特ニ種痘法ノ規定  
ヲ勵行シ種痘懈怠者オカラシムル様注意セラルヘシ(別紙ハ郡  
市長へ通牒ノモノト全シ)

### ●種痘法令ニ關スル質議

一 定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ行フ場合第一期ハ翌年六月  
第二期ハ十二月トアリ其ノ期間ニ長短アルハ如何

〔答〕 一ハ翌年六月一日翌年十二月迄トアリ之ニ其後一年以内  
ト云フ意味ニテ期限ニ差ヲ生シタル次第ナルモ實行上第  
一期ト第二期ト別々ニ指定スルハ煩雜ナレハ施行規則  
ニテハ同時ニ指定スベキコトニ規定セリ

二 舊種痘規則ハ三種制ヲ採リタルニ新法ハ二種制ニ變更シタ  
ル理由如何

〔答〕 前規則ハ生後一年以内不善感ナレハ更ラニ一週年内再三  
種ハ五年乃至七年トアリテ其期間ハ各八區々ナリ故ニ督  
勵上大ニ困難ヲ感スルヲ以テ新法ニテハ時期ヲ一定シタ  
リ而シテ二期トシタル主意ハ學者ノ意見諸外國種痘強制  
ノ例ヲ參酌シタルモノナリ例ヘシ獨逸ニ於テ先年調査委



員ノ決議ニ依レハ種痘ノ効力ハ廣キ範圍内ニ動搖スル事  
平均十年ノ免疫性ヲ有ストアリ同國ノ法律ハ之ヲ採用  
第二期又公私學校生徒十二歳ト規定セリ匈牙利瑞西ノ「カ  
ントン」「フライブルグ」等南米亦畧之ニ倣ヘリ  
三 數ハ歳八歳九歳ノ種痘善感者ヲ第二期ト看做セハ其ノ不善  
感(免疫性)ノ場合モ同シク二期トシ然ルヘキ筈ニ思ハル之  
二 ヲ一期トセル理由如何又附則第三項ニハ數ハ歳八歳以後ニ  
受ケタル種痘ハ善感不善感ヲ問ハス第二期ト看做セリ其區  
別アル理由如何

〔答〕 善感シタル種痘ノ効力ハ人ニ依リテ差違アルモ平均約十  
年間持續スヘシ故ニ八歳九歳ニ善感シタル者ニ數ハ歳十  
歳ノトキ種痘セシムルモ無効ナレバ之ヲ第二期ト看做シ  
タルモノナリ然ルニ第一期種痘未了者ニシテ不善感ナル  
場合ハ施術上ノ欠点又ハ一時的ノ免疫性アル等ニ因ルモ

〔答〕 新法施行前ニ於ケル種痘ノ感否ハ實際ニ於テ之ヲ調査ス  
ルコト能ハサル者多シ又從前臨時種痘等ニ依リ再三種痘  
セテ受ケタル者多數ナルヘシト認メタルヲ以テ新法施行前  
ニ係ルモノハ其善感不善感ニ拘ハラズ種痘シタル証跡明  
瞭ナル者ハ之ヲ定期種痘完了ト看做シタルモノトス而シ  
テ七歳以前ヲ第一期トシ八歳以後ヲ第二期ト看做シタル  
事主意ハ舊種痘規則ニ依レル再種三種ノ種痘ハ數ハ歳八歳  
以後ニ屬スル者大多數ナリト認メタルニ因ル  
四 學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ内ニハ養育院、病院ノ  
如キモノモ含ムモノト解シ可然ヤ  
〔答〕 養育院其ノ他私立癩療養所、私立神經病院等ノ如キ其性



質上一時的の入院ヲ目的トセサルモノハ當然育兒院ニ  
 準スヘキ場所ナルモ之ニ反シ臨時入院治療ヲ目的トスル  
 病院ノ如キハ法第三條第二項第一號中ニ含マサルモノトス  
 五 法第四條ノ新ニ保護者トナリ云々トアルハ從來ヨリ其ノ關  
 係ノ繼續セルモノモ法律施行ト同時ニ新ニ右ノ關係ヲ生シ  
 タルモノト解スヘキヤ

〔答〕

六 法律施行後新ニ關係ヲ生シタルモノニ限ル  
 法第四條第二項種痘ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ届出  
 ツヘシトアリ然ルニ第七條猶豫ヲ申請スルコト、ナリ居リ  
 テ兩者手續上ノ寬嚴ヲ異ニセル理由如何

〔答〕

法第四條ハ新ニ保護者トナリ又ハ法第三條ノ義務者トナ  
 リタル例ヘハ下婢、子守、小僧ヲ雇入レタル場合等ニ於テ  
 種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル証跡不明ナル未成年  
 者ヲシテ直ニ短期間内ニ履行セシムルル聊カ酷ニ失スル

ノ嫌ヒアリトノ主旨ニテ六ヶ月以内(種痘法ノ原案ハ三十日ト  
 會ニテ六ヶ月以  
 内ト修正シタリ)ト規定シタルモノニシテ其ノ際公種痘施行  
 期ナレハ容易ニ受ケシムルコトヲ得ヘキモ然ラサル時期  
 ニ在ツテハ僻地ノ如キハ醫師ノ許ニモ痘苗ヲ備ヘ居ラサ  
 ル等ニ依リ事實種痘ヲ受ケ能ハサル場合アルヘク又多年  
 種痘ヲ怠リ來リタル者ニ對シテハ私種痘ハ到底期待シ難  
 ク結局六月内ニ受痘セシメ難キ者ハ市町村長ニ届出テシ  
 メ市長村長ニ於テ直ニ種痘ヲ行フカ又ハ次ノ公種痘施行  
 期ニ指定ヲ行フカ其ノ時ノ狀況ニ應シ適宜措置セシムル  
 見込ニシテ又ハ法第七條ノ場合ハ市町村ニ於テ公種痘所ヲ  
 開設シ受痘者ノ便宜ヲ圖ルト同時ニ種痘ノ履行ヲ期セル  
 時期ナルヲ以テ萬不得已者ノ外猶豫セシメサル必要アリ  
 而シテ其ノ猶豫ヲ出願スル者ハ自費種痘ヲ行フ覺悟アル  
 モノト認メ期間經過後三十日以内ニ任意醫師ニ就キ種痘



七

ヲ受ケシムルトシ即チ兩者ノ性質ニ應シ手續ヲ異ニシ  
テハ迄ニシテ其間寛嚴輕重ニ差ヲ付シタルモノニアラス  
紡績會社ニ通勤ノ工女ノ如キハ先ツ會社ヲシテ種痘ヲ行ハ  
シムヘキヤ或ハ其ノ保護者ナルヤニ依ルヘシ

(答)

本法施行後通勤女工ヲ新ニ傭入タル際ハ法第四條第三項  
ニ依ルヘシ、其ノ他ノ場合ニ於テハ通勤女工ノ保護者又  
ハ法第三條ノ義務者ニ於テ種痘ヲ受ケシムベキモノトス  
然レモ會社ニ於テ寄宿女工ニ種痘ヲ行フ際ニ可成勸誘シ  
テ會社ヲシテ行ハシムルハ可ナリ

八

猶豫ノ申請ハ疾病ナレハ醫師ノ診斷書事故ナレハ相當証明  
書ノ如キモノヲ要セザルヤ又其ノ手續ハ口頭或ハ代人ニテ  
モ可ナルヤ

(答)

診斷書若ハ証明書等ヲ添付セシムルコトハ強テ必要ナシ  
又其ノ手續ハ已ムヲ得サル事情アルトキハ口頭或ハ代人

九

附則第三項ノ定期種痘ヲ受ケタルモノト看做スルノハ此際  
十四調査シテ市町村長ヨリ戸籍吏ニ通知ヲ要セサルヤ

(答)

通知ノ要ナシ

十

法第九條ニヨリ更ニ指定シテ種痘ヲ受ケシムルモノハ指定  
十三期日ニ種痘ヲ受ケサルモノニ限リ其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之  
ヲ受ケタル証跡不明ノ者ニ對シテハ直ニ種痘ヲ行フヘキ義  
ナルヤ

(答)

法第九條ハ種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル証跡不明ノモノ  
ニ付テハ期日ヲ指定セシテ直ニ種痘ヲ行フヘシトノ意  
味ニアラス即チ普通ノ順序ヨリ言ヘハ一應催告ヲナシ其  
ハノ催告ニ應セサル場合ニ於テ施行規則第六條ニ依リ更ニ  
一期日ヲ指定シ仍ホ痘ヲ受ケサルトキハ直ニ種痘ヲ行フヘ  
キモノトス

(答)

一期日ヲ指定シ仍ホ痘ヲ受ケサルトキハ直ニ種痘ヲ行フヘ  
キモノトス

十一

キモノトス



十一 數へ歳十一歳以後(一期ヲナサスシテ)ニ種痘ヲ受ケタルトキハ第一期種痘未了ニ拘ハラヌ之ヲ第二期種痘ト看做サル理由如何

(答) 數へ歳十一歳以後ノ者ハ既ニ第二期ノ年令ニ屬スルヲ以テ之ヲ第一期ト看做サス直ニ第二期ト看做シタル所以也  
十二 法第十條ノ種痘ハ一回ノ接種ニテ宜ロシキヤ其ノ不善感者ハ第二回ノ種痘ヲ要スヘキヤ

(答) 後段ノ通り  
十三 法第十一條ノ届出ノ場合ハ醫師ノ診斷書又ハ其ノ他ノ證明書ヲ徵スルノ必要ナキヤ

(答) 必要ナシ  
十四 醫師(市町村種痘醫ニアラサル)ノ接種シタルモノヲ市町村檢診所ニテ檢診シタル場合又ハ市町村ニテ接種シタルモノヲ醫師ニテ檢診シタル場合種痘濟証又ハ種痘証ヲ交互附

與シ差支ナキヤ

(答) 檢診ノ場所如何ニ依リテ公私種痘ヲ區別ス即チ市町村ノ檢診所ニ於テ檢診シタルトキハ種痘濟証醫師ニ於テ檢診シタルトキハ種痘証ヲ交付ス

十五 痘漿採取ノ規定ヲ置カレタル理由如何

(答) 別段深キ理由ナシ舊規則ニ其ノ規定アリシヲ以テ新法ニ於テモ之ヲ存シ置キ特ニ人漿ヲ要スル場合ニ於ケル万一ノ用意タルニ過キス

十六 檢診期日以後ニ於テ檢診ヲ受ケタルモノニ對シ証書ヲ交付スルハ法規上及實際上差支ナキヤ

(答) 差支ナシ但シ多クノ時日ヲ經過スルトキハ事實上感否ノ鑑別困難ナルコトアルヘシ  
十七 施行規則第七條ノ檢診期日ハ醫師ニ對シテモ命令サレタルモノト心得可然ヤ



〔答〕

然リ

十八 痘瘡經過証ハ如何ナル様式ニナスヘキヤ又市町村立傳染病院ニ收容セラレタルモノ、如キハ市町村長名ニテ交付スルモ差支ナキヤ

〔答〕

十九

法第十四條ノ當該吏員ノ範圍ハ警察官吏市町村吏員ト心得可然ヤ例ヘハ檢疫委員(醫師又ハ警察官以外ノ委員)ノ如キ(防疫職員、豫防委員)ノ如キハ包含セルモノト認メ可然ヤ

〔答〕

二十

臨時種痘ノ場合ハ痘瘡流行ノ場合ノミニ限ラル、ヤ痘瘡患者發生等ノ際一局部ヲ限リ種痘ヲ施行スル場合亦臨時種痘ナリ尤モ協議ニ依リ若ハ衛生組合等ニ於テ自衛的ニ施行スル場合ハ此限ニ在ラス

〔答〕

二十一

法第十五條ノ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍トハ年令、地域ヲ指スモノナルヤ又定期種痘ヲ終リタルモノ例ヘハ二歳ニ第一期ヲ終リタル者ニ對シ數ヘ歳十歳ノ間ニ臨時種痘ヲ命スルカ如キハ穩當ナラサルヤ是等臨時種痘ノ範圍如何

〔答〕

二十二

又期日ヲ指定シ云々トアルハ市町村ノ開設スヘキ期間ナルヤ或ハ種痘義務者ニ指定スヘキ期日ヲ指スヤ

〔答〕

二十三

臨時種痘ヲ命スルハ市町村及箇人ニ命スル意味ナルヤ又此場合種痘法ヲ準用スル範圍如何

〔答〕

二十四

種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍中ニハ年令及地域ヲ包含ス又數ヘ歳十歳以内ノ者ニ臨時種痘ヲ命スルモ差支ナシ

〔答〕

二十五

臨時種痘ハ箇人ニ命スルモノナリ

〔答〕

二十六

種痘法準用ノ範圍ハ法第四條第八條第十條第十三條等ヲ除キ其ノ他ハ大抵必要ニ應シ準用シ得ルナラン

〔答〕

二十七

臨時種痘ハ箇人ニ命スルモノナリ

〔答〕

二十八

種痘法準用ノ範圍ハ法第四條第八條第十條第十三條等ヲ除キ其ノ他ハ大抵必要ニ應シ準用シ得ルナラン

〔答〕

二十九

臨時種痘ハ箇人ニ命スルモノナリ

〔答〕

三十

種痘法準用ノ範圍ハ法第四條第八條第十條第十三條等ヲ除キ其ノ他ハ大抵必要ニ應シ準用シ得ルナラン

〔答〕

三十一

臨時種痘ハ箇人ニ命スルモノナリ

〔答〕

三十二

種痘法準用ノ範圍ハ法第四條第八條第十條第十三條等ヲ除キ其ノ他ハ大抵必要ニ應シ準用シ得ルナラン

〔答〕

三十三

臨時種痘ハ箇人ニ命スルモノナリ

〔答〕

三十四

種痘法準用ノ範圍ハ法第四條第八條第十條第十三條等ヲ除キ其ノ他ハ大抵必要ニ應シ準用シ得ルナラン

〔答〕

三十五

臨時種痘ハ箇人ニ命スルモノナリ

〔答〕



廿二 醫師カ種痘証ノ交付ヲ要セサル者ニ對シ交付シタル場合  
其ノ種痘証ハ所謂虛偽ノ證書ナルヤ又紛失等ノ場合再タヒ  
三タヒ交付ヲナシ差支ナキヤ

〔答〕 定期種痘ニアラス若ハ定期種痘ト看做スヘカラサルモノ  
ニ對シ醫師カ故意ニ定期種痘證ヲ交付シタルトキハ所謂  
虛偽ノ証書ナリ又紛失等ノ場合ニ診療簿等ニ依リ事實細  
詳明瞭ナレハ再三種痘證ヲ交付スルハ差支ナシ但シ裏面  
ニ其ノ旨ヲ朱書スルヲ可トス

廿三 種痘濟証紛失等ノ故ヲ以テ再交付ヲ申請シタル場合交付  
然ルヘキヤ或ハ此場合ハ証明ヲ渡スヘキモノナルヤ  
〔答〕 善感顆數等書類ニ徴シテ判明セバ種痘濟證ヲ再交付スル  
ハ妨ナシ多年ノ後ニ至リテハ善感顆數等不明ノ場合アル  
ヘキヲ以テ簡單ナル種痘義務完了ノ證明書ヲ認メタルナ  
リ故ニ兩者中何レヲ交付スルモ可ナリ

廿四 官廳公署學校等ハ法第七條若ハ第十二條ノ如キハ準用ス  
ルノ限リニアラサルカ

〔答〕 然リ但シ便宜市町村長ニ通知スルヲ可トス

廿五 法附則第三項ニヨリ定期種痘ヲ受ケタルモノト看做スヘ  
キ種痘ハ一回限リ〔不善感ニテモ〕接種シタルモノニテモ可  
ナルヤ

〔答〕 然リ

廿六 法施行前七歳迄ニ種痘ヲ受ケ第二期種痘ヲ爲サスシテ經  
過シタル十一歳以上ノモノアリ此ノ者ニ對シテハ第九條ニ  
依リ市町村長ノ發見シタルトキハ第二期ヲ指定スルノ必要  
アリ然ルニ附則第四項ニヨリ第四條規定ノ場合ハ第二期ヲ  
命スルノ必要ナシ同一ノ者ニ對シ此ノ差アル所以如何  
〔答〕 法第四條ハ前保護者又ハ前義務者ニ於テ自己ノ責任ヲ遂  
行セサリシ爲メ已ムヲ得ス新保護者又ハ新義務者ニ補充



の責任ヲ負ハシメタルモノニシテ法律施行ノ際既ニ第二期ノ年令ヲ經過シ且ツ生來既ニ一回以上ノ種痘ヲ受ケタル者ニ付テ仍ホ此ノ補充的責任ヲ負擔セシムルハ聊カ過酷ニ失スルヲ以テ附則第四項ニ於テ之ヲ除外シタルナリ

廿七 法第一條第一項第二號但書ニ依リ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ種痘ヲ行フモノニ對シテハ施行規則第一條ノ市町村長ノ指定期日ハ十二月迄テ指定シ可然ヤ然ラザレバ法律ニテ規定セラレタル期間ヲ短縮スルノ嫌ヒアルニヨリ翌年ノ指定期ニ延期シテ可ナルヤ

〔答〕 法第一條第一項但書中翌年六月又ハ十二月ニ至ル間トアリ施行規則第一條ハ則チ右ノ期間ノ範圍内ニ於テ期日ヲ指定スヘキコトヲ定メタルモノナルヲ以テ別ニ法律上ノ期間ヲ短縮シタルモノニアラス隨テ施行規則第一條第二項ニ依ル場合ノ外指定期日ヲ十二月迄トスルハ不可ナリ

廿八 目下某會社ニ寄宿セル十二歳以上ノ工女アリ此工女ハ種痘ヲ怠レルモノナレトモ種痘法ハ第四條ノ場合ニアラサレハ會社ヲシテ種痘セシメ難キカ如シ果シテ然ルヤ若シ此際施行セシムルモノトセハ法第何條ヲ適用シ可然ヤ

〔答〕 法第三條及第九條ヲ適用ス

廿九 施行規則第一條ニ依リ指定スヘキ期日ハ三月ヨリ六月ニ至ル期間ニ於テ何月何日ヨリ何日迄ト指定スルヤ單ニ何月何日迄ニ種痘ヲ受クヘシト指定スルモノナルヤ其方法如何

〔答〕 單ニ何月何日迄ト指定ス整理順序第一條參照ノコト

三十 施行規則第一條第二項ハ仮令ハ其ノ年出生ノ者ニ對シ其ノ年種痘期日ヲ指定スル如キモ所謂種痘期日ニ變更ナルヤ

〔答〕 然リ

卅一 施行規則第五條ノ場合ハ市町村ニ於テ種痘ヲ施スヘキヤ又ハ醫師ニ就キ爲サシムヘキヤ若シ醫師等ニ於テ三十日以



内ニ種痘ヲ受ケシムル能ハサル場合例ハハ痘苗ナキ等ノ場  
合ハ再ヒ猶豫証ヲ交付シ置クヘキモノナルヤ

〔答〕

公種痘ヲ受クルモ私種痘ヲナスモ本人ノ任意ナリ乍併其  
ノ時期ニ公種痘所ノ開始ナキトキハ醫師ニ就キ種痘ヲナ  
スノ外ナシ痘苗ナキ等ニ依リ種痘ヲ受ケシメ做キ場合ハ  
其事由ヲ申請セシメ再猶豫証ヲ交付スルハ妨ナシ

卅二

市町村長ノ指定前私種痘ヲ行ヒ其ノ届出ヲナシタル者ニ  
對シテハ不善感者ノ外指定ヲ要セサルヤ又例ハハ二月中ニ  
私種痘ニテ不善感ノ者ニ對シ三月(其ノ間極メテ短期ノ場合)ニ市町村長  
ハ指定シ可ナルヤ

〔答〕

種痘期日ノ指定ハ特別ノ場合ヲ除ク外一般的ナリ又二月  
ニ私種痘(不善感)ヲナシタル者ニ對シ三月ニ至リ特ニ其  
ノ者ニ對シ種痘期日ヲ指定スルハ不善感ノ原因如何ニ依  
リテハ再無効ニ終ルヘキヲ以テ翌年ノ公種痘施行期ニ指

卅八

定スル可トス

〔答〕

第二期痘種濟ノ者ハ戶籍吏ニ通知ヲ要セサル所以如何  
新法ハ種痘ノ濟否ヲ明ニシ未種痘者ニ速ニ之ヲ督勵シ得  
ルタメ第一期種痘ハ之ヲ戶籍簿ニ符號ヲ以テ記入シ或ル  
時期(數ヘ年ニ一歳ノ十二月)ニ符號ナキ者ヲ調ヘ戶籍吏ハ  
市町村長ニ通知シ市町村長ハ其現住所ヲ調ヘ次回ノ公種  
痘施行期ニ期日ヲ指定シテ種痘セシム之ハ第一期ノミナ  
リ第二期ヲモ記入スルコトハ希望スベキナ期モ頗ル煩  
雜ニシテ容易ノ業ニアラス第二期ニ就テハ學齡簿學籍簿  
ニ登載スル等ノ方法モアルヘキヲ以テ之ヲ割愛セリ特ニ  
第一第二ニ輕重ヲ付セルニアラサレモ今日外國ニ於テ強  
制種痘第一期ノミニテ甘シ居ル所アル程ニテ強テ比較ス  
ルハ第一期ニヨリ多クノ重ヲ措カサルヘカラス即チ苟モ  
將來(昨年出生以後)國民タルモノハ必ス戶籍簿中ニ此



卅四 ノ符號ヲ有セサルベカラサルヲ期セリ  
施行規則第十二條第一項第六號ノ証跡トハ如何ナルモノ  
ヲ指スヤ

〔答〕 種痘法施行後ハ第二期種痘ニアリテハ左上膊ニ接種スル  
ヲ通例トスルヲ以テ其部位ニ依リテ之ヲ知ルヲ得ヘシ尙  
但書ノ所謂証跡トハ必スシモ痘瘡又ハ種痘ノ癍痕ノ外結  
節水泡ノ証跡其他一號乃至五號以外ノ記録等確實ニ之ヲ  
証スルニ足ルモノモ亦包含スルモノト解スヘキナリ

卅五 施行規則第十一條ニ醫師ノ證明書トアリ即チ醫師ノ証印  
ヲ届書ニ受ケタルノミニテハ差支アリヤ

〔答〕 其ノ届書ニ種痘月日善感顆數等記載アレハ單ニ証印ノミ  
ニテ差支ナシ  
卅六 証書用紙ノ色紙ナキ場合表面文青又ハ赤ニ染色シタルモ  
ノニテハ不可ナルヤ又醫師ノ交付スヘキ証書ハ任意白又ハ

赤青色ヲ準用シ可ナキヤ  
〔答〕 表裏トモ有色ナル用紙ナルハ醫師ノ種痘証亦之ニ做ス  
コトヲ希望ス

卅七 種痘証書ノ住所ハ保護者ト受痘者ト異ナル者ハ兩者共  
ニ並記ヲ要スルヤ又ハ保護者丈ノ分ニテ可ナルヤ

〔答〕 受痘者ノ住所ヲ記スヘシ  
卅八 施術心得第十一條ニヨリ猶豫スル場合ハ市町村長ハ申請  
ヲ待タス夫々猶豫証ヲ交付スヘキモノナルヤ

〔答〕 然リ  
卅九 施術心得第十二條第一項第一號但書中第二期種痘以後ト  
アルハ第二期ヲ含ムモノナルヤ

〔答〕 然リ  
四十 整理順序第一條第二項最終日云々ノ意味了解シ難シ如何  
〔答〕 市町村長ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間〔施行規則第一條〕



〔答〕ニ於テ其期日ヲ指定ス此際ハ其期日マデニ任意ノ醫師ニ就テ私種痘(施行規則第三條)ヲナスカ然ラサレハ市町村

ノ公種痘ヲ受ケサルヘカラス仍テ市町村ガ此後者ノ爲ニ開クヘキ種痘所ハ其最終ノ日ヲ指定期日ト同一ニスヘキ

ト云フ(施行規則第十二條)ニ依リ種痘中ニ在リテ種痘所ヲ開クハ

四十一 同第十條第四號中「前年中ニ痘瘡ヲ經過シ」トアルハ「經過セス」ノ相違ニアラザルカ

〔答〕「經過セス」ノ相違ナリ(施行規則第八條)ニ依リ種痘中ニ在リテ種痘所ヲ開クハ

四十二 同第三十五條及第三十六條ハ施行規則第一條第三項ニヨリ施行スルモノト心得ヘキヤ又ハ補助的施行ノ意味ナルヤ

〔答〕後段ノ意味ナリ(施行規則第三十五條)ニ依リ種痘中ニ在リテ種痘所ヲ開クハ

四十三 種痘簿ニ保護者ト受痘者ト住所異ナレルモノハ併記シ又ハ續柄等ヲ記載スルモ差支ナキヤ又本籍人ト寄留人トヲ區別シ簿冊ヲ調製スルモ差支ナキヤ

〔答〕差支ナシ(施行規則第三十五條)ニ依リ種痘中ニ在リテ種痘所ヲ開クハ

四十四 法附則第三項ニヨリ各定期ノ種痘ヲ受ケタルモノト看做サルルモノハ從前ノ種痘證ヲ所持スルモノハ可ナレトモ

若シ其ノ證書大キモノハ其ノ看做サレ得ヘキ証ナキカ故ニ是ヲ追認スヘキ方法ナキヤ若シ市町村長ヘ其ノ看做スヘキ

〔答〕證書交付ノ請求アルトキハ其ノ證明書ヲ交付シ可然ヤ

四十五 證明シ得ル場合多カルヘシ(施行規則第十二條)ニ依リ種痘中ニ在リテ種痘所ヲ開クハ

〔答〕如何ナル場合ニ交付スルモノナルヤ其ノ例示ヲ請フ又其ノ證明書式ヲ一定スルノ必要ナキヤ

四十六 付スルモノトス書式ハ特ニ一定スルノ必要ナシ(施行規則第十六條)ニ依リ種痘中ニ在リテ種痘所ヲ開クハ



四十六 附則第三項ノ場合種痘証濟ノ交付ヲ申請スルモノアル

モ交付スヘキモノニアラスト認メ可然ヤ

(答) 交付スヘキモノニ非ス

四十七 種痘事務整理順序第四十三條ニ依リ市區町村ニ於テ醫

師ニ無償ニテ交付スヘキ用紙調製費ハ其ノ市町村ノ種痘費

ト認メ可然ヤ

市町村ノ種痘普及上必要ナル豫防事務ト認メラルルニ付

(答) 其ノ費用ハ種痘費ヨリ支出シ差支ナカルヘシ

四十八 種痘簿ハ當分從前ノ臺帳ヲ使用セシメ差支ナキヤ

(答) 種痘簿ハ臺帳式ハ全然不可ト認ム但シ當分從前ノ臺帳ニ

テ整理シ得ル見込アルニ於テハ任意ナリ

四十九 十月乃至十二月ニ至ル間ニ於テ施行スル場合ハ規則第

一條ニ依リ種痘期日ヲ指定スルヲ要スルヤ

(答) 施行規則第一條第二項ニ依ル場合ハ期日ノ指定ヲ要スル

ハ勿論ナレドモ事務整理順序第三十五條第三十六條ニ依

ル場合ハ種痘ヲ怠レル者ニ對シ指名指定スルノ外一般定

五十一 期ニ在ル者ニ對シ期日ヲ指定セシムルノ主意ニアラス

法第十二條醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキ

種痘証ヲ交付スル時期ノ規定ナシ直チニト心得可然ヤ

(答) 檢診ノ當日交付スルモノトス

五十二 事務整理順序第三十五條ノ受痘者多數ナル市區町村ハ

凡ソ人口五万以上何万位迄ノ市町村ヲ指ス見込ナルヤ

(答) 交通ノ關係等ニ依リ一様ニ言ヒ難キモ縣廳又ハ郡役所々

在地等ノ如キ市街地ヲ指ス主意ナリ

五十三 昨年中出生ノ者ニシテ同年中既ニ種痘ヲ受ケ不善感ナ

ルモノハ法ハ明カニ第一期ノ種痘ヲ受ケタルモノト看做サ

ル此ノ者ニ對シテハ第二期ノ定期年令迄種痘セシムルノ要

ナキカ







